婦人衛生雜誌

大正四年九月二十五日發行

第三百十號

婦人衛生雜誌

第三百十號目次

大日本婦人衛生會

例會通知

來る十月二日(第一土曜日)午後一時半より神田區一ツ橋通り共立女子職業學校内に於て本會例會相開き左の講演有之候間御知友御誘引御來會被下度候也

一、飲食物に就て　醫學博士　二木謙三君

一、口腔の衛生　醫學士　田中貫一君

大正四年九月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんと皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治卅二年十二月改正）

第一條 目的 本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するにあり●第二條 本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條 本會々員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條 入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條 會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條 男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條 會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條 退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せす●第九條 本會に推戴員を置き其中より總裁一名を推し[illegible]殿下に[illegible]るものとす●第十條 本會に左の役員を置く、會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員三十名、書記若干名●第十一條 會長[illegible]十二月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條 會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條 臨時指名委員の件●第十四條 會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條 會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の給酬を給す●第十六條 集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條 毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演説談話を囑托し會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條 會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會に偕に誘致し講義演説等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素なるべき事）●第十九條 講義演説等は男子の傍聽を禁す●第二十條 規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條 毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條 本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條 會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條 會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條 地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條 本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條 支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條 本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其會費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條 支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし●雜件

第三十條 本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條 會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿册に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條 會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送設として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條 會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし振替にて口座番號東京一〇六〇〇番本會事務所宛に振出しあるべし●第卅四條 會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議員會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地　私立大日本婦人衛生會



實行し得べき社會改良

志賀重昂

私も矢張り子供を有つて居りまして、男の子が尋常小學校を此間卒業したやうな譯で、其位の男子が當時自分の所に居りますから能く解りますが、貴女方も御自分のお家で、御兩親などからいろ〳〵な話をして下さる其際に、男子でも女子でも同樣でありますが、昔の人の話し或は今の人のことでも宜しい、斯う云ふ偉らい人が、斯う云ふ事をして居つたとか云ふやうな話をしても、非常に子供が感服する時と餘り感服しない時とがある。で何故そんな話を聞かしても子供があまり感服しないかと云ふと、それは恰度貴女方が博物館などに行つて御覽になつても、此處の處には鑛物がある、此邊の所には工藝品がある、又此邊の所には植物がある、又此方には歷史のやうな物がある、此方に行けば動物があると云ふやうに種々の珍らしい物などを御覽になりましても、唯漠然と觀たと云ふだけでは切角見ても頭を刺戟することが誠に薄いのであります。然にそれが何か共進會のやうな處に參りまして米なら米、繭なら繭、其外いろ〳〵盆栽などの共進會とか、活花の展覽會のやうなものになりますると、米の良く出來る土地は何處だとか、或は此米の品質は大變良いとか、又品質は良さそうだが形が少し長細いとか云ふ風に、それを見る人の十人が八人までは其物に就て一々趣味を有つて觀るから、お米を作る人なら何處から出るのが宜しいとか、九州から出た米は光澤が宜いとか或は形が長細いとか、或は是は何うも少し色

が赤いとか云ふやうに、それ〲其道の人が自分の方と其物を比較して見る。又繭にしても同樣で、彼の繭は光澤が宜いとか、此方の方は光澤は宜いけれども絲の伸びが惡いとか何んとか云ふやうに種々考へて、自分の方の出した物は光澤は宜いが絲の伸びの方に行つたら此方の方が宜いとか云ふて、各自各自でそれを比較して考へるものでありますから、自然に頭腦を刺戟して進歩させやうと云ふ觀念が起る。それであるから自分の方が良ければ其良い處は益々良くしやうとか、惡ければ改めると云ふ風に比べると云ふ考が一番必要だと思ひます。私が自分の子供に昔の人の話をしたり、又博覽會などで鑛物だとか動物だとか或は其外工藝品などを見せても唯漠然と見たと云ふだけでは頭に印象が少いから、それを比較して話をした方が大變頭に刺戟を與へるので、昔の人は十二位の時に此位偉い事があつたとか、斯う云ふ人は十六位の時斯うだとか或は二十位、三十、五十、八十の時に斯う云ふ事があつたとか云ふて、能く其年齡などに由つて比べて行るのが一番宜いのであります、がそれ等に付ても餘程能く注意して行かないと時に據ると子供の方から反問されても一寸困るやうなことがある。それに就きまして或時私が子供に本多忠勝と云ふ人の話をした事があつて、此本多忠勝と云ふ人は三百年前に亡くなられた人であるが、此人は非常な豪傑であつて十四位の時に初めて戰に出た、其時は何にしろまだ子供であるから、伯父さんが氣の毒に思つて敵の首を斬つて此甥の忠勝に呉れて、之をお前大將の處に持つて行けと言つて遣つた。すると此忠勝が子供であるにも拘はらず大變怒つて、其首を棄てゝ仕舞つて言ふのに、そんな伯父さんの取つた首などを人の處に持つて行けるかと言つた。さうして今度は自分で敵の首を取つて大將の處に持つて行つたと云ふ、それが恰度十四の時であつたと云ふ事を子供に話しましたところが、其時は多少感心はしたやうでしたが、暫くして私に向つて申しますのに、阿父さん今戰に出られ

るのは幾歳からです。今は二十一歳からでせうと言つた。成程さう言はれて見ると今は二十一歳から出ると云ふ規則に相違ない、十四位では法律が許さない勘定になる、將校にしても、兵卒にしても十四や十五では軍には出られない、だから幾ら戰爭に行きたいと思つても二十一歳からでなければ行かれない、さう云ふ事を今の子供はもうちやんと知つて居るから、折角さう云ふ感じさうな話をしても、年齡が違ふからと云ふ考が子供の頭にあるから此方で思ふほど感じない。で是等の話も三百年前の封建時代の人に爲るのでしたら直ぐ役に立つでせう、併しながら今では國家の法律がちやんと定まつて居るから斯う云ふ話をしても、それが適切に精神的の修養には出來ぬのであつて、昔の人の思ふ半分程も修養が出來ない。女子にしても、昔の偉らい女の話なぞを聞かせても、今の話のやうに多少社會が違ふから幾らそんな話をしたところが此方が思ふ半分も感じては居らない。であるから何んでも其事は自分で實行の出來ると云ふ考がなければならぬと思ひます。

さう云ふ譯でありますから、私等の能く申します二十四孝の事などで、昔支那に二十四人の孝行者があつて實に感服することが澤山あると言つても、それを今の時代に實行させて效能があるかと云ふことを考へてやらなければいけない。

先年の話でありますが、私が朝鮮の三千浦と云ふ所に參りましたが……是は今でもありますが、朝鮮が合同にならぬ前、商人の家族が生活上の都合暮しよい處から此三千浦に家を持つて居りました。其中に香川縣の人で大野縫造と云ふ人がありまして其人の所に參りました。で其處には日本人が何の位住んで居るだらうかと思ひましたので、……是は別の話でありますが、先づ此處に土着する人が何の位居るだらうと云ふことを考へる時分には、一番初に湯屋があるかと云ふことを聞くと分る。それで私は此處に行つて先づ湯屋があるかと聞いたところが、ありますと答へた。そこで先づ湯屋があるとすれば

必ず此處には日本人が五十人は居る。何故五十人と云ふ數が豫想されるかと云ふと、日本人は性來非常に清潔を好むと云ふところから、もう五十人も人が集まる處になると風呂屋が出來る。風呂屋は五十人のお客があればまづやつて行かれる、それで大概此處には五十人位は居るなと云ふ鑑定が付く。それから又日本人は他國に行つても本國…自分の國の物を好むと云ふところから、自分の國で食べた豆腐が食べたいと云ふので、それには豆腐屋は一番簡便でありますから直ぐに豆腐屋が出來る。それで豆腐屋があるとすると大概先づ其處には百人位は居ると云ふことが分る。それから又子供が居ると學校を造らなければならぬから、學校はあるかと聞いたところが學校は御座いませぬ、……はゝあ風呂屋があつて五十人以上、豆腐屋があつて百人以上…學校はありませぬ……學校はありませぬが巡査の細君が女學校を出て居ると云ふことですから、其處に子供を托して居りますと言つた。さうするとそれは百二三十人位そんなものでせう。それから土着するか否かと云ふことを知るには…先づ其處に來る人が阿父さんなり、阿母さんなりを連れて來て居るかと云ふ事を知るのが一番宜いで其老人の内の年は誰が一番歲が多いだらうと聞いたら、さうです矢張り豆腐屋のお婆さんですと言はれた。で其お婆さんは七十位になると言ひました。そこで私は豆腐屋に行きました、其豆腐屋は何うして居るかと云ふと、其豆腐屋のお祖母さんは眼が惡るい片眼の人であつた。そこでお婆さん貴方幾歲ですと言うたところが……六十九ださうでございます。で前に此お婆さんは七十だと言ひましたが、先づ六十九だと云ふことですから、まあ七十と言つて大いした違ひぢやない。それから貴方に孫が居るかと聞いたら、ヘー居りますと言つた、で先づ斯うんな老人を連れて來る位であれば土著するに違ひない、で此處の家では鯛の濱燒を拵えて朝から食べさせるで…餘程都市なぞよりは御馳走をする。で私が朝から鯛の濱燒なぞで贅澤じや

ないかと戯談を言つたところが。ヘイ是は親が大變に好きですから食べさせますと言つた。そこで私は大變良いことゝ思つて…朝鮮併合前ですから、昔なら迚ても斯んな事は出來ない、是は當世の本統の親孝行だ。人の國に來て人の國の豆で豆腐を造つて、人の國の魚を食つて朝から親に鯛の濱燒を食べさせるなぞと云ふ事は實に偉らい、…昔の二十四孝の中に寒中氷を破りて其中から鯉を捕つて親に食べさせたと云ふ事があるが、君の方がそれよりも餘程親孝行だと言つたら其亭主が眞に有難たうございますと言つて大變悅びましたが、同じ親孝行を爲るにしても昔の二十四孝なぞの行方と異つて、さう云ふ風な孝行の爲方は最も良い孝行の爲方で、當世に適した考であります。でさう云ふ風に凡て行れば現在の人間も動かすことが出來るのである。それは恰度「私」の子供か先刻申した通り。戰に出られないと云ふ法律が出來て居るから、幾ら偉らい話をして聞かせても昔の人の考へるよりは感服の度が少ない、それであるからどうしても一寸さう云ふ話を爲るにしても今の時代に當嵌まるやうな事をしなければいかぬと私は思ひます。で詰り社會を改良するとか或は世の中の風俗を善くするとか言うよりも前に實行の出來ると云ふ事をお互に考へるのが一番宜いと思ふ。で此點に就ては日本にも善い風俗が澤山あり又惡るい風俗も亦澤山ある。私等が外國に行きますと成たけ日本の良い處だけを話すると云ふことを主義として居りますから、西洋人の前なぞでは日本人の短所などは少しも言はないが、其代り日本人ばかりで西洋人の一人も居らぬ場合には、私は日本人の惡口ばかり言ひますが斯う云ふ事は貴女方もあまり外國人の前などでは言うて下さらぬ方が宜い。それで先づ子供が學校のやうな所でも…是は男子に多いのですが、自分の家の机なぞであると非常に大切にして瑕なぞを付けませぬ、ところが是が學校の卓子であると、人の物ですから要りもしない「大」の字を削つて付けて見たりなぞする。それから中學校なぞ

の生徒にしても學校の本なぞを亂暴に取扱ふと云ふ風があり、自分が一錢でも出して買つた本であると大變大事に取扱つて學校で貸して呉れた本だと思ふと、自分の物でないと云ふ頭があるから中に假名なぞを付けたりする。でさう云ふ風が段々いろ〳〵の職業を爲る時になつても自然現はれて來るので、それは何んでも人の物だから構はぬと云ふ心があるからである。で是は男子の方で、女子には餘り關係は有りませぬけれども、何うも日本人は西洋人とは餘程さう云ふ點は考が違ふやうである。能く西洋の土方などが働いて歸る時分、其途中でいろ〳〵な話をする場合は彼方の土方は電氣を此位使つて何の位の熱を出したとか、或は石炭を何の位使つていくらいくらの熱を出したとか言てさも自慢さうに話して居る。處がそれが日本の土方などになると、石炭は會社の物だからと云ふ頭があるからお構ひなしにどんどし焚へる、又社長は社長で自分の手紙を書くのに會社の紙であるから……官物だと云ふ處から大きな字を書いてどん〳〵惜氣もなく紙を濫用したりする。それから老人なぞでも、先づ佛樣に上げるお花だからと云ふ氣で、道端の櫻などでも巡査に咎められなかつたら構はず折て來るやうなこともしかねない。外國では昔から老人が死ぬと……普通中流以下の者……貧乏人でも馬の水飲と云ふ物……「ボント」さう云ふ物を拵へて、其處へ水を入れて自由に飲めるやうな物を公園なぞに拵へると云ふことを行る、日本で人力車夫や馬が水を飲むやうな處を幾個も拵へるのであつて、それは極く貧乏人の爲ることで、其上の金持―上流社會なぞになると學校を造つたり或は博物館を造つたり或は又道路の改良を圖つたりすると云ふことを道樂のやうにして居る彼のカーネギーなぞも大變にさう云ふ道樂……道樂と言ふと少し語弊があるかも知れませぬが、己れは一つ自動車の道を作らうと言うて十哩の間の自動車の道を作つてさうして兩側に護謨の樹を植えて滑べるやうな砥のやうな道を拵へて、自動車でさう云ふ滑らかな道

を十哩も行ける位に作つて居る。さうすれば自分ばかりでなく誰れでも遊びに行けると云ふ考で、さう云ふ事を行つて居る。一寸先づ外國人は道樂をするにしても人の爲を先きにする、自分一人でなく他の人も樂める事をしやうと云ふ風であつて、總てが公益を目的として出來て居る、それであるからカリホルニヤの人だの亞米利加に屬する人は別な氣持ですが、スタンホルドあたりの貴族院の議員などは皆な數多の金を出して種々公共の爲に圖るので、學校を建てたり或は博物館などを造ると云ふやうな事をして居る。さう云ふ風に貧乏人ですらも皆身分相應にそれ〳〵公共の爲になる事を行つて居る。昨年政府が調査になつた調に據ると公共の爲に寄附した金が三億千五百萬なんぼと云ふ金に上つて居る。此三億幾らと云ふ金高は日本の國家の收入と同じ位な額で、そんな多額になつて居ると云ふ事である。で今申上げたやうに上から下まで、さう云ふ事を行つて居つて、自分一人でなく、少くも人と樂むと云ふ考で行つて、自分だけにしやうと云ふやうな頭は有つて居らぬのである。是は日本などの教育とは土臺が違つて居るからと言ふかも知れませぬが、日本なぞではさう云ふ事は少しも無いものですから直ぐ解る。何故かと申しますと、何處の國に行つても日本人の集つて居る所、例へば布哇——布哇には既に日本人が十萬人も居るまだ十萬人はありませぬが來年の末になりますと軈て十萬人になると云ふて居る、それ位澤山日本人が來て居つて高等女學校があり、中等程度の學校があり、小學校の如きは百二十も在ると云ふ位になつて居る、斯う云ふ有樣ですから全く日本の内地と同じやうになつて居ります。それで此布哇と云ふ所は外國人が澤山來て居る爲め、野菜と云ふ野菜、果物と云ふ果物、或は家禽と云ふ家禽家畜と云ふ家畜は悉く外國から移殖して居る。ところが日本人は何うかと云ふと、日本人は明治三十年來住つて居つて、既に十萬人も行つて居りながらそれこそ泥鰌一疋も移殖して居らぬ、日本人は自分

さへ宜ければ宜い、人の爲になにかすると云ふ敎育は受けやしないと言つて居るが、總てがさう云ふ風であるから、何處へ行つても人の爲にすると云ふ事なぞは少しも爲ない。それだから自然布哇なぞでも排斥されるのであつて、人種が異つて居る爲に排斥されると言ふけれども、そんな人種問題なぞではない、全く日本人が何一つ爲になるやうな事はしないからであります。で日本人が三十年も此布哇に來て居つて明治元年あたりからボツ／＼來て居つた者もあるので、少し八ケましく言ふと四十八年近くも此處に住まつて居りながら何一つ移殖した事はない。花であつても、野菜であつても、動物であつても日本人が移殖したと云ふ事實は無い、それこそ泥鰌一疋でも移殖したことはない。で私もあまりいまいましいから何か見付出してやらうと思つて布哇島の側のマウヱーと云ふ所に參りましたら、其處の谷の處に日本の雉子が澤山居つたものですから、あれこそ確に外國の雉子ではない、日本人が移殖した雉子に違ひないと言つた。ところが此時は默止つて聞いて居つたが、あれは亞米利加の金持のボードリッヒと云ふ人が日本の雉子を移殖する爲に、横濱に雉子を二十七疋註文したので、其二十七疋註文して横濱から著く間に船の中で、二疋は死んで仕舞つて後の二十五疋を此山に放つたので、それが段々繁殖したのだと云ふことであつた。それで雉子は全く日本の雉子とは違つて居らぬが、移殖したのは日本人ではなし矢張りボードリッヒと云ふ人が移殖したのでありました。で一體日本の敎育と云ふものは、そんな敎育は日本でもしやせぬと言つたけれども、實際を言ふと恥かしい位日本人は人の爲に何にもして居らぬから、西洋に行つて實に肩身が狹いのであります。

それから布哇には癩病患者が澤山あつて仕方がないので、モロカイと云ふ島がありますが、此島は山間絶壁の所で癩病患者を收容するには大變都合が好いさう云ふ嶮はしい處であるから癩病患者が幾ら逃げ

やうと思つても逃げることが出來ない、それで斯う云ふ所に病院を建て〻癩病患者を收容して居ります。さうすると云ふと白耳義は‥此間獨逸の軍隊に合ひまして一番先きに落ちました、此ルーバンと云ふ處がありますが、其處にダビアンと云ふ人があつて、其人が或時自分の父に向つて言ふのに彼の布哇と云ふ所には癩病患者が澤山居るのに世間の人が誰一人も慰めてやる者がありませぬで、眞に憐むべきことであるから、私が行つてどうかして慰めて遣りたいと申しましたところが、阿父さんがそれは傳染るからいけないと言つて止められたので、其時には行くことが出來なかつた。けれども此人はどうしても自分は行きたくつて堪まらないので、三十三歲になつた時に愈〻決心して、言ひますのに、今まで待つて居つても誰一人でも世界の人が此癩病患者を慰めに行つた者はないから、どうしても私が行つて之を慰めてやらなければならぬと覺悟を定めたのであるから、諸君が私に忠告して下さるのは誠に難有いが、併しながら此忠告して呉れた中の一人でも布哇に渡航されて、此癩病者を慰めてやつて下さると云ふことを實行なすつて下さつたならば私は潔く此擧を止めますと言つたところが、此忠告をした人の中に誰一人でも私が行かうと言つた人は無かつた。それではどうも仕方がない、誰れも行かぬと云ふならば是等の癩病患者を世の中から捨てると云ふのは氣の毒であると、さう〳〵三十二の時に決心してモロカイ島に行つて、癩病患者を慰める爲に音樂會や幻燈會のやうなものを行つて見せてさうして慰めて遣つて居つたところが、其中に忠告した連中なぞからダリアンに對して誠に氣の毒であると言つて、多少金を送くつて呉れたり、其患者の爲に寄附金なぞも出來たりしたので、大變親切に力を盡されたのである。それで此癩病者の爲に種々買物なぞにホノル、に通はれる時分には船に乘つて來られたが、其船も汚穢ない船をちやんと定めて置いた。で何故さうしたかと言ふと自分は癩病で

はないが、若しも是が他の者に移ると氣の毒だから
と云ふて、必ず其船で出懸けて、それからホノルヽ
の都に入ると必ず道の眞中を通る、さうして旗を建
てゝ「アンクリン」不淨〳〵と云つて皆を避けて通つ
た。で此人は非常な綺麗な人でありますので、是は本
統の生きた神樣であると言つて皆脫帽して起立敬禮
をしたと云ふ位である。ところがダリアンもさう云
ふ風にして布哇に十二年も居つた、すると十二年目
に遂に癩病が傳染した、で其時に醫者が全く癩病に
感染したのだと言つた。ところはさうかい、……大
概さうだらう……そんな位なことは當然だと言つた
さうである。それから四年生きて詰り癩病慰藉に從
つてから十六年目に死んだ、即ち四十八で死んだの
であります。此人は近世の人ですから誰でも皆昔の
人は知つて居る、斯くの如く白耳義人は布哇の癩病
者の爲に盡くして居る。ところが日本は何うである
かと云ふと、布哇のマウエーと云ふ處は氣候が良い
ので、去年肺病の病院が出來た、其病院を造る爲

にも外國人は皆それ〳〵金を出して居るのに、日本
人は金なぞ一文も出さない、外國人は皆多少なりと
も金を出して居る……入院患者は三十二人、而か
も其內日本人が二十人も居ります、さう云ふ風に金
も出さずに居りながら一度病院に只で入れると云ふ
ことになると云ふと、どこ〳〵入つて來る、それで
錢を出すと云ふことになると云ふと却て出さない、
本當に外聞が惡るくつて仕方がない。日本の癩病
患者などは何を行つて居るか……關東北邊では、此
邊から向ふの者は先づ身延山に行くと云ふやうにな
つて居る、身延山は日蓮上人の御慈悲でそれを救う
て下さると云ふて居る。それから又四國では弘法大
師、九州では加藤淸正公は大變御慈悲の深かい方で
あると云ふところから來たので、もう一つは迷信か
ら出たと云ふ傳說で……淸正公が……能く芝居なぞ
で行る毒饅頭……毒を飮まされて淸正公が死ぬ時に皮
膚の色が變つて死んだと云ふ事を傳へられて居る、
それで此淸正公は大變慈悲深い人であつて後世の人

を救うて下さると仰せられたと云ふところから、九州の熊本の本妙寺に癩病患者が行くのである。それから四國では屋島の弘法大師であります。それで此身延山に來た佛蘭西人が此有樣を觀て、是は誠に氣の毒であると言ふて、本國から七萬圓の金を持つて來て御殿場の「ステーション」の側で靜岡縣駿東郡富士岡村と云ふ所に、今から二十六年前に佛蘭西の人と白耳義の人とが收容所を建てゝ身延山に居る癩病患者を移して此處に收容したのである、それから又明治二十八年の時、今から恰度二十年ばかり前に熊本の本妙寺の山近き處に佛蘭西の女の人が此處に收容所を拵へて癩病患者を世話して呉れて居りましたが、明治三十一年には英人のミス、リーデルと云ふ人が熊本の北東の所に收容所を建てたのであります。でさう云ふ風に何處に行つても西洋人は自分ばかりのことでなく皆の人・世の中の人の利益になるやうな事を實行しやうとして居る。それで唯今では、日本では先刻も申した通りさう云ふ教育が無いからと言ひませうが、斯んな教へ方ならはしやせぬ。けれども日本人は何處に行つても人の爲にしたと云ふことはないので、我國の教育と云ふものは實行と云ふことを一つもして居らない、が西洋人はさう云ふことをして居る。それですから日本人は何處へ行つても嫌やがられて居ると云ふのは、何にも社會の爲に益をしたことがないから、自然亞米利加あたりでも排斥されるのであります。でよく外國人が、君の國の人は何か利益の事をしたことがあるかと云ふやうなことを言つて輕蔑される。偶々雉子が居つたから是こそはと思つて誇つたところが、先刻も言うたやうな譯であつて、あれは君の國の人がしたのではないと言はれるやうな始末であるから、今後の日本人と云ふ者は、是は餘程教育上に就て考へなければならぬと思ひます。

それで總てに於て唯今も申したやうな譯で一口に申すと癩病患者にしても自分さへ良ければ宜いと云ふやうな風である、で本來日本でもさう云ふ教育は

した譯ではないけれども、事實がさうであるから仕方がない。是等は皆我利々々亡者の考でありませうけれども、眞に良くないことである。それで又此日本の良い事も澤山ありますが、例へば今日に致しましても、今は恰度二時頃でありますが、外國では二時頃には郵便を配達しませぬ、明日の二時でなければ郵便を配達しませぬ、…彼方では土曜日は五時からは斷じて配達致しませぬ、ところが此方ではさう云ふ點は便利であつて、土曜日と雖も七時でも八時でも平日の通り配達をしますから明日の朝は必ず著くと云ふことになつて居るので、此點ならば外國よりは甚だ便利な處が澤山ありますが、併し同じ郵便でも小包郵便なぞは彼方の方が非常に便利である。例へば大きな小包郵便を送るやうな場合に…東京あたりでは五六町行けば郵便局が在る、ところが田舍に行くと三里も四里も行かなければ郵便局がない、さう云ふやうに東京にしたところが四五町も行かなければ此小包郵便が出せないから不便である、

ところが外國ではどうかと云ふと大きな本なぞを送らうと云ふやうな場合に「ポスト」の上に載せて置く、さうすると郵便脚夫が持つて行つて呉れるので天氣の好い日なぞには方々の「ポスト」の上に小包が重なり〱つて澤山載つて居る。日本なぞでは一々郵便局に持つて行かなければならぬので、どうしてもそんなことは實行が出來ませぬ。それから電車に乘ります時にも、日本では電車の切符を取る、尤もそれは經濟上の饒かでない國ぢや仕方がないが、日本よりも極く劣等な印度、馬來半島、錫蘭島、布哇、埃及等もさうであります、歐羅巴の系統の國では何處でも電車の切符はあつても後で破つて棄てても宜いのであります。で私が埃及の電車の切符を持つて歸りましたら私の友達が呉れい〱と言ふので澤山持つて居りましたから、斯んな詰らぬ物がお土產になるならと言つて遣りました、さう云ふやうに埃及などでも電車の切符は電車に乘つた以上と云ふものは取らない、胡魔化すやうなことはせぬから切符

なんか捨てゝ仕舞つたり破つて仕舞ふ、亞米利加や布哇などでも切符が無いなら五錢拂へば乘換も出來ます、ところが此方構造はどうであるかと云ふと構造は汽車の通りで出る所も入る所も一つ口でないから何處からでも飛乘れるやうになつて居るが、日本では入口から車掌が込合ひますからと、後から奥に入つても頸をすくめて頻に詰込んで貴君切符は〳〵と言ふて居る、すると中には切符も置かないで片方から出で行つて仕舞ふやうな人もある。

それから汽車に乘るにもチッキと云ふ物が無いから自分で何處なら何處と赤帽に直ぐ頼めば宜いのでありますから非常に便利である、其代り折々向うで間違へて渡されぬと云ふやうな事もあるが、斯う云ふ風であるから誠に便利である。それから高い山なぞの自動車或は汽車もない或は又馬車もないやうな所に行くと云ふと、大きな樽があつて「ビール」が一杯五錢と書いてあつて、五錢の銀貨を函の中に入れてさうして勝手に飲まれるやうに出來て居る。總てがさう云ふ風に出來て居る。それであるから日本の行れぬやうないろ〳〵な惡い風俗なぞも澤山あるが、社會上の風俗から言うと日本人の方が餘程惡るいやうである、で是はどうしても直さなければならぬので直しさへすれば非常に便利であります。是は私の言ふところではないのですが、加藤男爵がもと英國大使館が公使館であつた時分、加藤公使がお話があつたのを學生の筆記したのを讀んだのですが、それは日本の政府から彼方の銀行へ一億の金を送くるのに英蘭銀行に托した時分に、大金であるから若し萬一間違でもあると大變だと思つて日本の行口で書記官に受取を書いて送くらせた。ところが向からは受取も何も呉れないものですから受取を呉れへと言つたら、此方では受取はありませぬと言はれたと云ふことがあつた、さう云ふ風でフインランドでは受取なぞは何も拵へませぬから非常に輕便である、日本のやうに印をペタ〳〵押したり何かしないから非常に物事が迅速に扱はれて極く便利である。

それからもう一つ是は私が直接見たことではありませぬが、非常に困つたことがありました、矢張り加藤公使のお話を思出しましたら行つたのですが、今からずつと前恰度明治四十三年の八月二十二日でありました、旅行先きで金が無くつて大變に困つたことがあります。アルプスに「インフラー」と云ふ山がありますが、其山に登る時に八法きり金が無かつたので足りませぬから、何うにか工風しなければ迚ても今日は登ることが出來ないと思つて大變に困りました、で彼方では正金銀行に金を渡して置けば、此人は何處に行つても金を貸して呉れるから旅行者の爲には非常に便利であるが併しあまり片寄つた此アルプスの「インフラー」山のやうな所に行たつて金を貸して呉れるやうな所はない、少くとも靜岡とか名古屋位の所に行けばそれは借りられるから何にも困りませぬが、そんな信州の山奥に似たやうな所では借る所もありませぬので非常に困まつた。ところが又其日は非常に天氣が好く山の一番頂までも見える位で、それに雪が一杯に積つて居りますしどうしても今日の此登山を思止まるのは如何にも殘念でならぬ、併し金は無し何うしたもんだと思つて居りましたが、此八法の金では足りないこともないかも知れぬが、誠に心細い：：尤も明日まで待つて居れば何處かの銀行から金が受取れるが、明日になると山の處に雲が懸るかも知れない眞に困まつたもんだと思つた。其時に不圖加藤男の演説の筆記のやうにして度胸を定めて其側の小さな銀行に參りまして、どうか金を貸して呉れろと申しましたところが二十五六の若い事務員が出て來まして、貴君それでは旅行免狀を持つて居るかと聞きましたが、私は旅行免狀は持つて居りませぬから無いと言つた、——で此旅行免狀は歐羅巴などでは調べることはないが、亞米利加では之を持つて居らぬと上陸を許しませぬ、どうも今日は持つて居らぬと言ひましたので、それは困まると言つた、彼方では印と云ふものはなくつてもと書いた字を出して、今書いた字と比べて見るので

ある、何か書いた物があるかと聞かれたのですが生憎何にも持つて居らぬから、それも無いと言うたところが、それは困まると言うて、此二十五六の銀行員が頻に考へて居つた、それぢや今頭取に行つて聞いて見るからと言つて立つて行つた、すると間もなく頭取が來てどうも何も無いと言はれるのであるから、さう餘計は貸せぬが、君は一體幾ら要るのかと言つたから、僕もさう餘計は要らぬのだと言ひましたら・二百五十法位・・・百圓位なら貸さうと言つたので、山の中に行くのだから百圓ありや餘る・・・實際其時は二十七圓位しか費はなかつたのでしたから無論百圓でも宜いと言ひましたら、其百圓を貸して呉れましたので私が一寸受取を書かうとしましたら頭取が何をするのだと言つたから、今受取を書くのだと申しましたところが、頭取が君は何うか此金は返すのだらうと言ひましたから、無論返すのだと言つた、明日になれば何處からか受取れるから必ず返すと申しましたらそれなら君受取なんか要らぬちやないか、實際僕は君が何處の誰だか分らぬが、唯自分が日本の旅行者だと云ふので貸して上げたのであつて、無論返して呉れると思ふから貸したんだと言はれました、で金が借りられたので其日に山に登ることが出來たのでありましたが、それから二日ばかり經つて郵便局で引換へて返しました、其時利息はと言ひましたら二日ばかり、の間だから要らぬと言はれたのですが、それから以後此人と此緣故で今日までも能く郵便を寄越しますから私の方でも繪葉書などを交換して居ります、さう云ふ譯で非常に彼方では便利で、公園なぞに行つても眞に感服する位である。尤も此瑞西と云ふ國は斯う云ふ風であるから、方々の國の人が遊びに來るのでせうが、此公園の掃除なぞの行屆いて居るには驚く程である。それで能く亞米利加人なぞが避暑なぞにやつて來る・・・今は戰爭で行かれませぬが平時は亞米利加の金持なぞが避暑に來て居るので、恰度私が參りました時に亞米利加人が此公園地に參つて居りまして、其亞米利加

人が日本が朝鮮を併合すると云ふやうなことなぞをいろ／＼聞かして呉れたりしましたので、其人に實際瑞西と云ふ國は感心な國で唯一個の旅行者で旅行免狀も持たないのに銀行で金を貸すと云ふことは大變感心なものだと私が話したところが、其亞米利加人がさう云ふ事は單に瑞西ばかりでなく他の國でも爲るのであつて、苟も旅行者として泊めた以上はホテルでも二百五十法位は貸して呉れたのに、君は何故ホテルの主人に言はないで態々銀行まで行かれたのだと、言はれましたが、斯う云ふ風で實に世の中は恥かしい位に異つて居るのである、是は卽ち國家が富み、國が富み、社會が富んで居るからである。然に此日本の有樣は何うかと言ふと先刻も申したやうに電車の切符でも買はせる位であるし、一寸金を借るにも印をペタ／＼押して受取を書かなければならぬと云ふやうな始末であつて、此等の點だけでも外國と余程違つて居るが是は詰り我利々々亡者が澤山居るから自然國が貧乏するのであつて、金も出さぬやうな譯なんです、がそれで何うしても日本の國が本當に強くならうとしたところで迚ても富國强兵の世の中でありますから、斯んな風では駄目であるで何うしても國家としては國民が富まぬければいかぬのであつて、それには唯今申上げた通り第一に社會を改良して、何んでも實行すると云ふことが一番良いのである。で私等も可成實行の爲得る時は直に實行すると定めて居る毎日々々實行の出來る事柄は必ず實行すると云ふ主義を取つて居りますが、それには何うしても社會の弊風を矯めると云ふ敎育がなければいかぬとか、或は實行せよとか云ふ議論なぞを言ふ時でなく、何んでもそれを必ず實行すると云ふ方が目下の急務ではないかと思ふ、で最近のいろいろの例を申すと、先月の十六七八日ですが、家康公が本當にお隱れになつた時でありまして、日光の久能山でも御祭がありましたが、私の生れた三州の岡崎でも此日に家康公と本多忠勝公との三百年祭があつた、其時に私の國の舊藩主がお祭をなさいまし

て、土屋大將が總裁で私が此刷總裁を致しましたが舊藩主が餘計な金は出せぬが一萬圓位なら出すが何か良い方法はあるまいかと仰せられましたので、私は今度のやうな三百年祭などゝ云ふ事は滅多にないから何か之に就て出來得るだけ有益な事をしたいと思ひまつて、總ての方法は私が成るべく考案するやうに致しました。で藩主も若し此一萬圓の金で社會改良が圖られるものなら出さうと仰しやつた、でどうも金が少ないから實際其方法に苦しみましたが、それなら先づ繪葉書を二萬枚お刷りになつて、さうして本多家の物と家康公の物と即ち三枚續のを二萬枚お作りになりて、それを斯うなさつたら宜しうございませう、其繪葉書を彼方にも此方にも監督者も何も置かずに雨に漏れぬやうにして、側に函を置いて、「お望の方は三錢入れて此繪葉書を一袋お持ちなさい」と書いて彼方、此方に置いて、さうして此繪葉書を買はせるやうにする、さうして何の位狡猾い人があるか試驗する爲にもならうと思うたのです

が、私も何か寄附を致しませうと申上げて自分が亞米利加なぞの事を書いた小冊子を拵へて、それを一緒に添へて送りましたが、さう云ふ方法に行うて三日の間、方々に置きました。私の考では寧ろ惡るいことを言うやうですが、まあ大抵は盜つて行く：：唯持つて行く人が多いだらうと思つた、ところがさうなると人間と云ふ者は不思議な者で、却て只は持つて行かないものと見えて、夫々置いた所からの報告に據りますと其勘定が澤山は間違はない、それで此繪葉書には德川家に關係なる貴いものだの本多忠勝侯の肖像だのを三枚續にしてあつて、此繪葉書を明けて見るといろ〳〵有難い錢のやうな物の繪だの自分達の舊藩主本多侯の肖像だのが刷つてあつて、それを明けて見ると自ら惡い心持は起されぬやうになつて、誰も人が居ないから金も置かずに行かうと思つても矢張り己れの良心が咎めて三錢置いて行くと云ふ風になる。斯う云ふ風にして六ヶ所に置きましたで愈々終の日になつて計算したところが或

處では三錢以下、或所は一錢違ひ、或所では七十錢ばかり足りないと云ふ位なもので、悉く正直に行つたので、思つたよりは巧く行つたのであります、それで斯う云ふ事はどん／＼實行する方が宜いと思ひます。

それから其次に展覧會を「是字寺」と云ふ所にお開きになつたのですが、此寺は家康公がお生れになつた時に「是」の字をお握りになつて居つた云ふ事は歴史上にも書いてありますが、此事をお坊さんの横外と云ふ人が家康公のお伯父さんに説明されて言ふたは、此「是」の字は卽ち日下の人と書くのであるから、此兒は他日必ず天下を掌握するやうな偉らい人になると云ふことを豫言されたのであつたが、果して其言の通りになられたと云ふ處から斯う云ふ名前の寺を建てたのですが、斯う云ふ事で兎に角此「是字寺」と云ふ所は德川家に取つて緣故の深い寺である。それですから此寺には德川家代々の御寶物だの家康公の甲冑だの、或は鎧だの、家康公のお書きになつた物だの種々な寶物が澤山あるので此「是字寺」と云ふ所で展覧會を開いたのであるが、其時には一切入場劵無しと云ふことにした、で斯くの如く貴重なる德川家の寶物が並べてあるのに數多の人が來るのであるから、若し萬一間違でもあつてはならぬと言はれた人なぞもありましたが、一切入場劵なしで入れることにしましたが、其條件としては例へば愛國婦人會であるとか、或は水產會であるとか、山林會、農會であるとか、或は何々會であるとか云ふ會の會員となつて居る人だけは入場料を取らずに入れたのですが、其代りそんなに澤山ある會の中の一つにても入つて居らぬ者には入場料五錢を取ると云ふことにしたのである。さうすると中には老婆さんが從軍徽章なぞを下げて來た者もあつたので、斯う云ふ者は何うすると言つたのですがまあ宜いからそんな者は默まつて入れてやれ、それは何にも惡るい事をしやうと云ふのが目的で來たのではないのだからと言ひましたけれども、そんな老婆あんが戰に行つ

た譯でもないのに伜の從軍徽章を下げて來たと云ふことが明である。でまあさう云ふ滑稽な者もありましたが、それでも總計で入場料が參百餘圓ばかり集まりましたから、一人五錢宛と思つても六千人あつたからそれだけの金が集まつた譯である。

それから實に日本では惡るい癖で…外國ではさう云ふ事はありませぬが、能く日本の人は汽車に乘る時分なぞでも…是から川崎の大師樣まで幾らと云ふことが解つて居る、それなのに「一等は幾ら二等は幾ら三等は二十七錢」であるとちやんと分つて居るのに、五十錢銀貨だの一圓だの滅茶々々に出して、まるで長蛇の如く連つてがや〳〵言つて我勝ちに釣錢を取つて居るが、外國では斯ふ云ふことはちやんと分つて居る。一等なら一等、二等なら二等が幾らと整然とそれだけの金を拂つて居るから、日本のやうに混雜しないで切符も買はれ、又取扱ふ人の方でも大變に手數が省けて樂である、それを日本人は自分さへ宜ければ宜いと云ふ風であるから　汽車でも電車でも大變に混雜をします。それで斯う云ふ時……入場料なぞにも外國では釣錢は取りませぬから、此日にも一切釣錢は出さぬと云ふことにしたのですが、恰度參百餘圓集まりましたから約六千人はあつたのです、さう云ふ風に何でも實行の出來る事はどし〳〵實行したのです。

それから其次にもと學校の生徒—舊藩主の領分內の學生が何の位あるかと云ふと一萬四千二百人あるますので、其一萬四千二百人の生徒を悉く賓客としてお呼びなさい、さうして一同に記念繪葉書をおくりになつて、さうして銘々子爵のお名前で招待券を一枚お送りなさい。で元來日本の子供の頭には自治的の觀念が無いから、自から制裁すると云ふ頭がない、それであるから例へば他處に一人でお客に行く時には誠に行儀も宜いし溫順しいが、是が多數となるとざわ〳〵して實に八ケましい、此前私が大變困まつたことがある…展覽會の時に學校の子供に繪葉書を渡す時分に、無暗に私にも下さい〳〵と

言つて騒ぐから、君等はさうがやく\言はなくつてもどうせ一枚宛上けなければならぬのだから靜にし給へと言つてもまるで、雲霞の如く群つて騒立てる、で三人のお婆さんが門の出口の處に居つたのが蹈付けられさうな騒を行つたものですから其婆さん達は私には迚ても行れませぬと言つて斷はられた事がありましたが。さう云ふ工合にどうも日本人と云ふ者は少數の時は極て靜粛で行儀も正しいけれども、大勢になると全く自治的に自ら制裁すると云ふ頭が無いから、迚てもこの一萬四千何百人の生徒に一々與へることは大變だからと云ふので一萬五千だけの葉書を東京の立派な會社‥‥東京印刷會社に頼んで一枚宛名前を書いて、それに私は文章を作つて「拜啓來る十八日岡崎公園に於て家康公及舊主本多忠勝候三百年祭執行致候に付御参拜被下度此段御案内申上候　尙御拜下さる方には乍輕微供物及記念の繪葉書を差上可申候尙休憩所は何々と取設置候」と云ふ調子で一枚く\殿様から皆々招待狀をお出しになつたさうすれば誰も精神的に有難がつて半分は必ず來るであらうと云ふ、こゝで斯う云ふ行方にしました。それで此招待劵も繪葉書も詰らぬ物ではいけぬと云ふて、田舍なぞでは未だ見たことのないやうな綺麗な物を刷らせた方が宜いと云ふので態々東京印刷會社に拵へさしたのである。

それから是は社會改良の事ではありませぬ、別の話でありますけれども、舊藩主に講演會をお開きなさいと申上げたところが、それは至極宜しいが、其方法なぞは君から宜しく行つて呉れと仰せられたので、私も種々考へたのでありますが、何う云ふ方法にするかと言ふと、東洋の事は東洋の坊さんなぞも能く知つて居るからそれに行らせるのも宜しいが、併し是は三河あたりで演説をしたところで唯日本だけを動かすと云ふ位に過ぎない、それで之を廣く人に知らしめて外國人をも動かさうと云ふには矢張り英國人とか亞米利加人とかが宜からうと云ふので、さう云ふ人達に交渉して演説をして貰ふことにし

た。で斯う云ふ風な事なぞをすれば直ぐ實行が出來るので、幾らも實行の出來る事があると思ひました、それで此事に就ては英國の新聞なぞがいろ〳〵書いて居りましたので、僅たりとも外國人の眼をひき自ら其心を動かさしめた事にもありましたらうと思ひます。さう云ふ風で少しの考の仕方で、僅の金でも大に利用することが出來るのである。一方に於ての講演會では外國人に講演を頼み、又一方に於ては僧侶さんに頼んで講演をして貰ひましたのですが。斯う云ふ工合に僅な金でも行方一つで私は實行することが出來ると思ひます。

それから又別に老人を此會にお招きになると云ふ事を爲さつたら宜しうございませうと申上げたのですが、それは今日ではあまり老人は古いとか言うと尊敬する念が幾らか乏しくなつて居るやうであるが、是はあまり良くないことで、西洋の風俗でも老人は老人として尊敬する親は親として敬うて居る、それを近來は何んだか老朽だとか何とか言つて老人を眼中に置かぬやうな傾向があるが、日本では昔からの系統で年長者は何處までも先きに立てるのが當然であるのが、どうもさう云ふ風が無くなつたやうであるから、此風を失はぬ爲に老人を澤山に呼ぶと云ふことにした、で詰りさう云ふやうな事で少し自分で考へて行れば誰でも實行の出來ることである、日常自分の家の事でもさうである、何んでもないことである。

それから外國では例へば郵便に親展書と書いてあつたならば決して人に見せやしない。此親展書を人に見せると云ふことは不德義になつて居る。で尤も日本では無暗に親展と云ふことを書く癖があつて、近頃では能く必親展などと云ふことを書きますが、段段そんな事でも改良の出來ることである。それですから私は十年來能く〳〵の手紙、人の一身上の事であるとか或は極く祕密の手紙でなければ親展とは書きませぬ、日本では唯一寸花見に行かうとか何んとか云ふやうな下らぬ書面にも親展と書いて居る

が、西洋では決して斯う云ふ事はあるませぬ。それから又紹介状などでもそうである、で是は支那でも西洋でも大變八釜ましく云ふものであるが、近頃は段々世の中が逼迫して來て居るから、職業を求めるにも一生懸命であるから日本などでも益々此紹介を頼む人が多くなつて居るが、外國では此紹介と云ふことは餘程自分が其人を信用しなければ紹介はしない。それであるから一度其人を紹介するには能く其人を知つて、十年も交際した人でなければ紹介はしない、其代り一度此紹介状を持つて行けば此人は非常に信用すべき人「トウトラアスト」の人となるのであるから大變に心配して呉れる。で是は支那あたりでも「袖交」―紹介状を大變八釜ましく申しまして、能く其人を知らなければ此「袖交」と云ふものは書きませぬ、ところが日本では錄々知りもしない人、甚しきは全く知らないやうな人までも紹介して行る。此間も或人の所から紹介を頼んで來て、別に郵便で此人は餘り信用は出來ぬがあまり紹介して呉れ〳〵と言はれたから已むを得ず書いたのだから其積りで居つて呉れなどゝ言つて來た、どうもさう云ふやうな紹介状では迚ても日本人は信用は出來ぬのである。それですから私は少し人が惡いやうですが、此頃は滅多に紹介状は書きませぬが、其代り自分の家に居つた下婢であるとか何だとか自分が十年間も其人の事を知つて居るやうな者には進んで書いて遣ります、此者は十年間誠に忠實に能く働いた者であるとか云ふやうな事をすつかり紹介してやる。でありますから前の郵便でも親展と云ふことは書かない、紹介状も滅多に書かぬと云ふ主義を實行して居ります。それ等は皆實行し改良の出來る事でありますから行つて御覽なさい。

西洋では人の家に行つて臺所を見ることなぞを行る。日本では自分の家の臺所なぞは滅多に來た人には見せぬが、西洋ではそう云ふ事は一向構はぬことになつて居る。日本で斯んなことなぞをすると餘り出しや張りだと笑はれる位である。日本では客間な

らば大變整然と片付いて居るけれども、臺所と言つたらそれこそ反對に片方には御飯を食べた茶碗が其儘になつて居つたり、俎の上には澤庵の切端が上つて居つたりして、實に客間とは大違ひである。で是等は誠に見苦しいことでありますが、西洋なぞでは臺所であるとか、洗濯場であるとか、そう云ふやうな所まで憚らず人に見せる。それと云ふのも彼方の臺所なぞは實に物品の配置なぞも能く整うて居つて皿のやうな物までも實に正しく納られてあるから、他人に見られても一寸も恥かしい事はない位清潔になつて居る。そう云ふ事も日本人は人に見える所ばかり清潔にして見えない所は何うでも宜いと云ふ心があるから日常の家政上の事にも斯くの如き相違があるのですが、それ等ならば直ぐ實行の出來ることであるから實行する方が宜いので、さう云ふいろいうな實行の出來る事が幾らもあります。それから又一體料理だとか何だとか言つても、唯美味くすると云ふだけが料理の必要でない、西洋では羊の肉や牛の肉なぞを氷らして冷藏する所がある、是は私の見たことでありますが新西蘭のピクトンと云ふ所に大きな羊の肉を出す所がある、其處に行くと大きな部屋があつて其處で羊を一日に百疋も殺すやうになつて居る、甚だ慘酷な譯でありますけれども、一番初の所に行くと羊の頸に錐の太いやうな物をぐさつと刺すと見て居る中に死んで仕舞ふそれが、素人が行ると却て上手に行かないのですが實に其行口なぞは慣れたもので刺すと一息で死んで仕舞ふ、でそれを二十年も三十年も行つて居るのだから却々上手なものである、さうすると側からどん／＼頸を截る者は首を切る、胴は胴、骨は骨と云ふ風にどん／＼他の方に運ばれて行く、それで斯う云ふことをする者が四五人も居つて行つて居る。それで其首が運ばれて行くので、それを運ぶ子供が車を持つて來て首だけ持つて行く者もあり、又臟腑は臟腑だけ持つて行く子供がある、そう云ふ風にしてどん／＼他の處に運ばれて行くと、今度向ふの處では肉は肉で釜で煮て

居るし、羊の脳漿は脳漿で脂を取る、其油はいろいろ機械なぞに使はれる、それから又髑髏は何うするかと云ふと隣の室に持つてかれてこちん〳〵と粉砕してそれを藥の原料にする、皮は皮で剝かれて革にする、毛は毛で羅紗の材料にするし、肝は肝で豚が飼つてあつてそれを片端から食べさして、其食べた豚の糞は糞で肥料にするためにどん〳〵船で送り出す、それで此肥料を送り出すには何うするかと言ふと海岸で：其處では四町ばかり先きに行くと人を乗せることの出来ないやうな汚穢い古船があつて、其古船に積んでどん〳〵送つて居ると云ふ有様である、で是等の有様を見ますと實に驚くほどで、總ての事にも少しの無駄をせぬから何に一つ棄てる所はない。

それであるから總てが英國なぞではさう云ふ風な行方であるから國の經濟も持てるので、斯くの如く非常に金持にもなれると云ふ斯う云ふ譯である。それからどうかと言ふと彼方の人は學問上の見識も有り、又經濟上に於てもお互が大に儉約をして居る。で外國の婦人と云ふ者は餘程此點に至つては日本人とは違ふ、日本人は何んでも大概の所は棄てゝ仕舞ふけれども、西洋人になると一寸鳥の「スープ」を拵へるにしても、少しも捨てないで何にも滋養分の有りさうな所は長い間煎じて〳〵煮て〳〵、非常な滋養の有る物にして使ふと云ふ風である。今言ふた通り無駄な事は少しもせぬ、羊の肉を拵へるのと同じで、「ロープスタト」の殼も棄てない、蝦の殼を粉砕してさうして「ホワイトソース」に利用して居る、貴女さん方が能く西洋料理なぞで使つて居るが赤くつて綺麗なものになる。で彼れは非常に燐酸を含有して居ると云ふことで、「ホワイトソース」の中に入れてそれを御菜の上に振懸けて使ふのである。斯んな蝦の殼のやうな物でさへも役に立つて滋養となる。斯う云ふ譯であるが是は卽ち見識と學問又續いて節儉それだけの念があるから總てが良く行くので、矢張り美麗な色が出て來れば多少食慾も出て來るので

ある。
それで唯今私が申上げた事は、もう是からは演說だとか教授だとか、或は教育だとか言ふて居るよりも、何んでも直に行ふ、實行すると云ふことが第一に必要であつて、例へば親孝行の話を始終しなくつても、親を敬ふと云ふこと、又自分が何か事に當つた場合、直に之を行ふ、と云ふ事…百遍も千遍も親孝行の話をして聞かせても詰り自分がそれを行はなくては駄目である、でそれは敢て親ばかりではない、親類でも友達でも皆さうである。
それ故に教育の方でも唯難ケしい事をいろ〳〵敎へるよりは、誰でも直く手取り早くさう云ふやうに爲る事の出來るやうに敎へるのが今日の社會改良の道であると思ふ。であるから餘り實行の出來ない廣い、漠然として事を敎へたり、言ふたり聽せたりするよりは、自分で工風する眼の前で、直に實行しても宜からうと思つた事なら直ぐ行へるやうにしなくてはいけない、何んでも實行しやうと思へば爲べきことは幾らでもある。で能く人に道を聞かれた時なぞにも敎へるのは譯ないが、此道を敎へる時分でも外國では道を尋ねると必ず付いて行つて敎へて吳れる、日本のやうに口の先ばかりで、それは其處の所を右へ入つて左へ曲つて三軒ですなどゝ言ふて、唯口で敎へて吳れるのでなく、態々付いて來て敎へて吳れる。まあ一寸さう云ふ風に何んでも直く行はれる事を行はぬと云ふのが一番いけぬ。徒に難ケしい事ばかり頻と考へて爲やうとするよりは寧ろ易さしい事が數限りもなくあるのですから、先づそれを直ぐ實行なさる方が宜い、それであるから今後は何んでも直ぐ役に立つ事をお考になられて直にそれを行ふと云ふことをなされたら宜からうと思ひます。それには銘々自分の境遇が違ふから誰も一緒に爲さいと云ふことは出來ませぬけれども、一口に言ふと物をお考になるにしても實行の出來ぬやうなことはお考へにならんで、今直ぐ實行の出來る事をお考へになつて、何んでも實踐躬行すれば自然社會の進歩改

良も直に行はれるのであるから、直ぐ行はれるやうなことを爲さるやうに願ひたい、それで今日此話を致した次第であるます、是で御免を蒙ります。

この講演は志賀先生が戊申婦人倶樂部に於てなされた御話の筆記に據つたもので別に校閲を經て居りませぬから、若し誤があるとすれば、それは記者に責があります。

叢談

初秋の衞生

千木庵主

私はもう時代遅れの醫者で、なか〳〵今日の精密な學理に基づいた廣大な衞生學などを論ずる資格は無いが、普通のまあ養生茶話と云ふ位の所は、永年間の自分一個の經驗からして、出來ないこともあるまいが、學理上から云へば隨分間違つたことも云ふであらうと思ふ然しどうせ俗人の爲には害になるやうな危い事さへはぶけば、案外老燃の話などが却て役に立つと云ふやうなこともあるものである。

扨て初秋の衞生と云ふ問題であるが、一體衞生と云ふことの根本には春も秋もない、夏でも冬でも常に生を衞る工夫はあるべき事で、朝の衞生、晝の衞生夜の衞生と云ふやうな事を云ふと四六時中衞生疲れに疲れて仕舞ふ、どうも近頃の衞生は斯樣な傾がありはしないかと思はれる、殊に個人の衞生は守約ならねば煩はしい、細々した原理を竝べても活きてある人間は性質、體質に相異があり、職業も異り、貧富の關係もあるから、なか〳〵一樣に規定する譯には行かぬ、つまり實行が出來なければ個人の衞生は何にもならぬことである、それ故誰にでも出來る極ありふれた、つまり云はずもがなの事を云ふだけのことゝなる。

それで個人衛生と云へば、先づ第一に充分快く飲食し、充分快く活動し、充分快く睡眠せよと云へば盡きてゐるやうなものである。只その充分快く飲食するのには如何に心得べきかと云ふ事になる。前にも云ふ通り、秋になつたからさて周章てゝ特別の衛生を講ずるにも及ばぬ、相變らず好きな物を程好く食べれば宜しい。秋は穀類を始め果實も種々結構なものが澤山出て來る、魚類、獸肉も味が好く豐富になり且つ安全になつて來る、それに應じて氣候の關係から人間の身體も精神も何となく引緊つて、食慾が盛になつて來る。斯樣な御膳立は何も衛生學に依るのではない、悉く自然の然らしむる所である。この自然の食慾に依て自然の賜物を受用すればそれで宜しいので、夏瘦も自ら恢復し、身體自ら肥滿し、精神も亦隨つて旺盛となる。唯意を用うべきは、この自然の賜物を正當に受用すべき點にある、即ち食慾のみに依つて食物を濫用する分には全く他の動物と異る所はない、茲が人間だけの智慧を用ひて害を受けずに利のみを得る工夫を要する所で、所謂衛生と云ふ事になるのである。

然しこの衛生とても敢て難かしいことを論ずるにも當らぬ、大體食慾に任かせて充分飲食して宜しいのであるが、恐るべきは赤痢とか虎列剌とか云ふやうな病原菌の居ることである、これは何分肉眼を以て認めることが出來ないのであるから危險である。何處から何う云ふ手續で飲食物に混じて來るか分からない、總て煮炊をすれば、それで黴菌は死滅する筈であるが、果實の如きものは恐く煮ては天然の味を失つてしまふから不便である、それで少なくとも一度清潔な水で洗つて、皮殼を剝いて食べるやうにしなければならぬ。何物にても、何時でも暴食しては消化器を害することは分かり切つたことで改めて云ふべき事でもない、凡て暴と云ふのは惡いことである。

次に充分快く活動すると云ふことも、これは苟くも活きてゐる健康な人間には當然のことで、健康なれ

ば自然に活動せずには居れぬ筈である、活動は又衛生上に必要である。必ずしも外に見える身體の活動とのみは限らぬ、精神の活動、言ひ換へれば腦髓の活動も亦頗る大切である。凡て安閑として茫然してゐる者は身體も決して强壯でないのみならず、精神の方も早く老耄してしまつて、世の邪魔物となり易いものである。秋は身體の運動にも精神的の活動にも最も適當な季節であるから、此際一番奮勵することは經濟の上にも精神の上にも利益が多い、而かもその活動は衛生上身神の爲に宜しい。女子達とてもそうである、交際だとか芝居見物だとか云ふことにも勿論佳い季節ではあるが、夏の物を始末して冬の物の仕度をするのに極めて都合の好い、必要な時節である、熱心に、氣まめに、樂しく仕事すべき時である。衛生の上から云へば家事に務むるのは物見遊散に勝さること百倍である。神經衰弱とか「ヒーステリー」などと云ふやうな變な病氣は、勤勉な實直なものよりも寧ろ我儘な贅澤な懶惰者に多いのである。

最後に充分快く睡眠せよと云ふたが、これも自然のことで、無理に快く眠ることは出來るものでない、催眠劑を用ひて眠らねばならぬやうなのは病人の部類で、普通健全の人は一日勤勉に働けば自ら快く眠れる筈のものである。身體の適度の疲勞と、一日人間としての義務を盡し得たと云ふ心の滿足は快き睡眠に入らしむるものである。聖人に夢なしなどと云ふのも此邊のことであらうと思ふ。殊に秋は眞に寢心地の好い。

斯樣なわけで特別に初秋の衛生と云ふことは何もないが、赤痢の如き消化器を侵す傳染病がこの季節に多くなるから、最も用心すべきはこの點である、卽ち飲食物と共に病原菌を消化器の内に取入れないやうに、若し誤つて侵入してもこれに負けないだけの健康と元氣とを養ふのは正にこの時である。斯樣に外の方から來る特別の害物に侵かされぬやうにさへ注意するならば、秋は自然に健康を增すべき狀況

になつて居るのであるから、遺憾なく充分に自然の恩惠を享受するのが、この季節の衛生とも云ふべきであらう。

胃病の養法

醫學士　志田義三

「私は胃病だから軟いものしか戴きません、それも極少々づゝしか戴きません」などと云ふのが通常胃病患者の攝生法である。然し胃病と云ふ中には種種の胃病があつて、必ずしも軟いものを少々づゝ食べるのが養生法と云ふわけのものでない。それを感違ひして居るから往々胃病が治癒らぬのみならず、何時もひよろ〳〵した身體で居る人が少なくない。その誤をたゞす爲に胃病の食養法の要領を述べようと思ふのであるが、これも生兵法のもとゝならねば幸である。

食養法を述べるにも、食物の這入る胃そのものに就て極大體の事を知つてゐないと都合が惡い、又變な間違つた考を持つてゐると矢張話が解せないやうなことになるから、先づ胃の解剖學と生理學を研究して置く必要があらうと思ふ。

それで胃と云ふのは口から食物の通つて行く所の食道と云ふ管、その管の下に續いて居る肉の嚢で、食道からの入口の處は噴門と云ふ。又出口の處は幽門と云ふて、此處から腸の始り、卽ち十二指腸と云ふ部分が續くのである。胃の大さは人に依て異るが、先づ一升位も這入る嚢で、一寸譬へるならば長靴の脛の處を上の方に向けて左に蹴上げたやうな格好である。尤もこれは食物の這入つて居る時と空虚の時とて大變形が違ひ、何れが本當の形か一寸定めにくい。「エッキス」光線で腹の上から寫眞に撮つて見ることも出來るが、何時も形が異ふ。在り場所は胸と腹の部分に跨つて少し左側の方に寄つて居る。長靴の踵に當る所は胃底と云ひ、腓腸部に當る所を胃體と云ふて居る。靴の趾を塗る外側と足に著く內側と

のやうに胃も外側と内側とは大變模樣が異つて居る。内側は粘膜と云ふて口唇や口腔の紅い薄皮と同樣のもので、非常に皺襞が寄つて居る、胃が膨れゝば伸びる。而してこの内側には消化藥を分泌す腺が澤山ある、これが大切なものである。胃の解剖學は大概この位にして置て次には胃の生理學である。

胃は消化器の一部分で、食物が腸に行つて能く消化され血となり肉となるやうに準備をする所である。然し勿論此處でも幾分消化もされ吸收もされる、但し一部分の物に限るのである。その作用と云ふのは先づ口の方から這入つて來た食物を受容れて消化液を混せ、腸に至つて充分消化されるやうに料理をし直す、尚ほ一部分の物は既に此處で消化して吸收する。これが胃の生理作用の主なものであるが、口の方から來る飲食物に對しては入口の噴門と云ふ部分に括約筋があつて、濫りに物を通さない、即ち非常に冷たい水や、腐蝕藥のやうなものが來ると固く鎖づる、胃に物が満ちて居るときも固く閉づる、空になればその締りが緩くなる。出口の幽門と云ふ部分にも同樣括約筋があつて、食物が腸に送られるに都合が好くならない内は濫りに通さない、而して胃の内で能く食物が揉まれ、いよ〳〵腸に行くに適當になれば恰も手で生餅をちぎる時のやうに幽門竇と云ふ部分が締まつて十二指腸の方へ内容を送出す。これが胃の生理作用で空腹とか満腹とか云ふ感じが起り、或は物を欲しいと云ふ食慾が起り、或は飽いて見るのも厭はしくなり、甚しきは吐逆すると云ふやうな種々の現象も起る。

凡そこの位の事を述べて置て、次に本題の胃病食養法に移ることゝする。

胃病と云へば少し惡い物を食べたり、食べ過ぎたりした時に起る單純の胃加答兒も胃病、胃癌も胃病、樣々のものがあるが、胃の運動が惡くなることがあり、消化液の分泌が多くなり過ぎることがあり、或は反對に少なくなることもある、又吸收の惡くなることもある。これに由て飲食物の加減をしなければ

ならぬのであるから、胃病なれば何でも軟いものを少しづゝ食べれば宜いとか、梅干に御粥を食べて居れば良いとか云ふわけのものではない。嚴密に胃病の食養法を定めるのには、胃の運動機能、分泌機能及び吸收機能に就て檢査をし、尚ほ其人の全身の狀態から嗜好までも能く考へた上で定めなければならぬもので、實は非常に六ケしい事である、普通の開業醫にも一寸出來かねるほどのものであるから、玆には勿論極大體の見當でお話するより外仕方がない。

第一に胃の內には消化の爲に自然に鹽酸と云ふものを生ずるが。これが過分に出ることがある。これは種々の胃病の場合に起ることで、なか〳〵多い。斯樣な場合には大抵何となく胃の部分が苦しい感じがして胸がやけるとか、酸い水が出て來るとか、空腹の時又は食後二時間目位に痛が起る、而して少し何か食物を食べると痛が止むと云ふやうな症狀がある。即ち胃加答兒、胃潰瘍、胃の分泌過多症などと云ふ病氣の時は斯う云ふ風である。斯樣なときには重曹又は「マグ子シア」のやうなものを服用すれば大に效能がある。尚ほ醫療上種々の藥を與へ又胃を洗滌ふとか樣々の事をするが、一番大事なのは飮食物の注意である。幾ら藥を飮むでも食物に氣をつけなければ治癒るものでない。食物に氣をつけると云ふと、直ぐ粥に梅干と早合點をする人が多いが、間違ひである。

斯樣な際には先づ胃酸が多く出ないやうにすることを主眼としなければならぬのである。これには成るべく胃の粘膜を刺戟しないやうにすることが必要である。この目的には矢張食物を粥のやうにした方が宜しい、即ち物を咀嚼すると胃液の分泌も盛になるものであるが、粥なれば啜り込むから宜しい、而して比較的胃を刺戟することが少なく且つ早く胃を去るから良いのである。但し熱い米粥などを啜込むことは禁物である。然し一體この場合には米とか薯とか云ふやうな所謂含水炭素物の消化が惡くなり、こ

れに反して肉とか卵とか云ふものに多い蛋白質の方は頗るよく消化されるから、この方を選むだ方が宜しい、但しこれも成るべく細かく柔かに料理することが必要である。それから脂肪は酸を少なくするものであるから宜しい、バタ、肝油の如きものを食して可い、この理由で卵の黄味も宜しいわけである、只往々胸が悪るくなることはある。それから酒、煙草、總て刺戟するものは止めて、煙草は先づ食後位にする。食時に水を飲むでも差支ない、殊に「アルカリ」水は宜しい。

第二には第一のものとは全く反對に胃液、又胃酸も分泌が少なくなる場合がある。此時には何んな風かと云ふに、輕い場合には別に氣がつかないが、稍々著しくなれば食後に胸が苦しくなり、いやに腹が張り、往々むねが悪くなるとか、噯氣が出る、まゝ胃に痛を覺えることがある、而して下痢或は便秘し、頭痛がするとか、眠れぬとか、肝癪が起るとか云ふ所謂神經症狀が現はれて來る、併しこれは其他の胃病にもあることであるから、胃液の檢査をした上でなければ確かな診斷はつきかねる、且つ胃液や胃酸が少なくなつたり無くなつたりするものゝ中には胃癌のやうな性質の悪いものもあるから油斷はならぬ。

斯様な診斷を下されたときは食養法上如何に注意すべきかと云へば、この場合には第一の胃酸の多くなるときとは反對に澱粉食の方を多くし、蛋白質の方を少なくするのである。但し澱粉食と云ふても豆や小豆のやうなものを丸煮にしたものでは困る、矢張粥とか味噌汁と云ふやうに粉にし或は軟かに煮砕いたものでなければならぬ。蛋白質も絶對に禁ずる必要はない。只獸肉でも魚肉でも脂肪の多いものは宜しくない、鳥肉でも所謂ササミと云ふやうな處を選ぶやうにしなければならぬ、鶏卵や牛乳は感服しない、下痢を起すから止めた方が良い。ソップ、酒類は適當に用うれば分泌を促がす效があるから宜しい。

この外に胃病と云ふものには澤山種類があり、その症狀も甚だ種々であつて、なか／＼二三頁に書き切れる譯には行かぬから、今日は一旦これだけで止めて置くことゝする。

牛乳を治療上に用ふる意味（承前）

莊司秋次郎

腎臟病、又膀胱の疾患のときには總て刺戟の無いものを賞用致しますので、この點に於て牛乳を用ひます、然し牛乳だけを何時までも用ひますと、食欲がなくなり、從つて榮養が惡くなるものであります。

それで慢性の腎臟炎のときには牛乳の外に肉類、卵、穀粉汁なども用ひ、肉汁、茶、酒精飲料、少しく鹽氣を加へた食物も許さなければなりません。

慢性胃加答兒で鹽酸の缺乏してゐる場合も腎臟炎の時と同樣であります。脫脂乳及び濃厚な牛乳は胃液の分泌を亢進させる作用があり、「ケフイーヤ」は炭酸を含み且つ少量の酒精をも含むで居りますので矢張胃酸の分泌を亢進せしめ、胃の内で凝まり方も細かいから、胃加答兒の場合には彼の「ヨーグルト」などよりも適當とせられます。

胃潰瘍及び胃酸過多症と云ふ病氣の時には牛乳に乳脂を加へたものを用ひますと分泌を少なくする效があります。胃潰瘍と云ふのは胃の粘膜に傷が出來て非常に痛のある病氣で、固い物を食べるわけには行かず、その他の理由からして能く牛乳を用ひますがこれも餘り長く牛乳のみを與へるのは誤りで、その爲に貧血を增すやうなことになります、又五合以上も牛乳を與へますと胃が難儀しますから潰瘍の治癒を惡くします。胃潰瘍ではその潰瘍の所から出血致しますが、出血した翌日には牛乳だけを與へます、然し二三日の後には卵を與へます、一日に六個位。

それから一週間も經てば肉を擂挫して裏漉にかけたものを與へ、牛乳には乳脂或は「ラロサン」又は巴旦

杏などでこしらへた乳劑を加へますが、これは牛乳よりも滋養分に富むで居り、又牛乳よりも消化し易く、胃の中で凝まることも細かく、胃の中に止まつてゐる時間も短かいからして、胃の弛緩症とか、腎臟炎、心臟病、又肥滿療法等には牛乳よりも適當な食物とせられます、痛風などにも宜しいと云はれます。

小腸加答兒で慢性の下痢のあるときには牛乳はいけません、大人には卵又は脂肪の少ない肉を搗して裏漉にしたものを與へ、小兒には蛋白水或は蛋白乳を與へます、蛋白乳と云ふのはフインケルスタイン及びマイエル兩氏の創製したものでありまして、保存して置くに便宜な形になつて居りますが、百二十五瓦入りの鑵詰として發賣されて居ります。これは穀粉榮養で障碍の起つたとき、下痢の場合に效能があります。これを用ひますのには一旦煮沸した溫湯を等分に加へ、體溫位に煖め、それに百瓦に一刀尖、後には輕く一茶匙、次には山盛に一杯のソキスレツト氏滋養糖或はレフルンド氏滋養「マルトーゼ」を加へ、四週間乃至六週間も續けますと、下痢は止むで治癒ります。

ビーデルト氏の「ラモーゲン」と云ふものがありますが、これは牛乳の中の「カゼイン」を少なくして、脂肪と糖とを增加へたものでありまして、體質の虛弱な小兒には、含水炭素を多く含むでゐる飮料よりも消化障碍を招き易いやうであります。

脫脂乳及び濃厚牛乳は肉類よりも廉價で熱量に富むで居りますから一般に賞用されまして、濃厚牛乳はこれを麵麭に塗り、馬鈴薯その他のものにて菓子を製します、これは消化し易く、滋養に富み、刺戟もなくて味が美いものであります。

大腸加答兒で赤痢樣下痢を起しましたときには牛乳殊に酸性乳及「ヨーグルト」は最も適當であります。

慢性便祕に對しては牛乳は何うかと申しますと、牛乳は野菜や果實のやうに腸に刺戟を與へませんから、大抵便祕し或は腹が脹るものですが、酸性乳及

び牛酪乳として與へますと却て便祕に效があります。尚ほ一日三回一食匙づゝ乳糖を牛乳に加へるか麥芽糖或はケルレル氏「マルツ」汁を加へますと便通を催すものであります。

若し牛乳に依つて下痢を來しますときには、牛乳二百五十瓦に「アラビアゴム」十瓦を加へるか或は石灰を二三食匙加へると宜しい。

肥滿療法の爲に或は神經衰弱症又は貧血症等に對して牛乳の榮養價を增さうとします際には乳脂、卵黃、「ヌトローゼ」、「プラスモン」、「ラロサン」、「サナトーゲン」、植物乳の如きものを加へます。

慢性便祕の爲に往々腹痛を訴へ、その他の症狀を起すことがありますが、此際には肉食を禁じますけれども、牛乳は差支ない、殊に酸性乳、牛酪乳、「ヨーグルト」、青い野菜、果實は與へて效があります。

熱性傳染病、バセドウ氏病、その他腸中毒に由て起る皮膚病例へば蕁麻疹の如きもの、又重症の糖尿病、腎臟炎、膀胱加答兒等には主として牛乳と野菜とを與へます。

小兒に與へる牛乳は一、二分間煮沸し、或は牛乳と熱湯とを混和して一分間煮沸致します、徐り長く煮沸しますと牛乳の性質を變じますから、長くこれで榮養を續けますと病氣になることがあります。

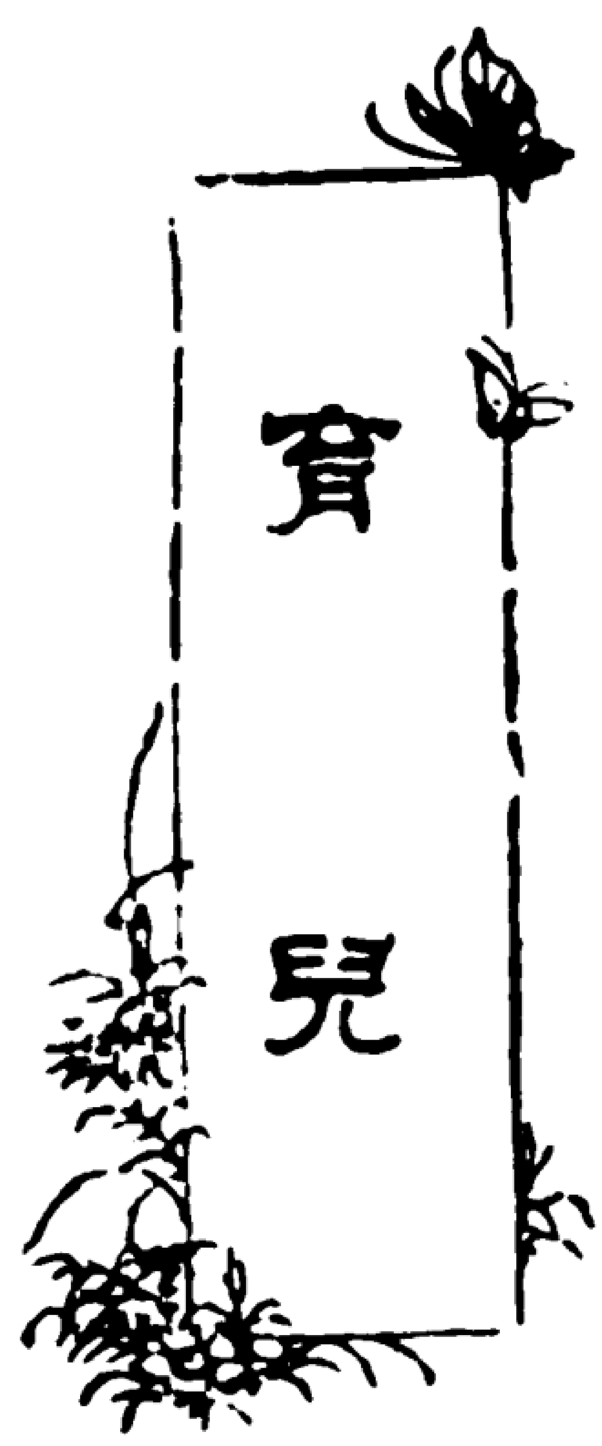
牛乳を飮むには一口づゝ飮むか或は匙で以て飮むやうに致します、そうでないと牛乳中の「カゼイン」が大きな塊となつて消化し難いのであります。

牛乳の臭や味の爲にそのまゝ飮み得ない人には炭酸水、咖啡、茶、「ココア」、「コンニヤック」、赤酒、石灰水等を加へれば飮み良くなります。

以上述べた所を一括して見ますと、治療上に牛乳を應用致しますのは、脫脂療法、心臟、肝臟、腎臟及び膀胱の疾患、痛風、貧血、神經衰弱症、癲癇、多量の肉食等の爲に起る自家中毒、バセドウ氏病、その他多數の皮膚病等の場合でありまして、脫脂乳濃厚牛乳及び「ケフイール」は胃加答兒に。脂肪乳に乳脂を加へたものは胃潰瘍、胃酸過多症に。「ヨーグ

ルト」は、粘液汁、穀粉汁に砂糖を加へたるものと共に大腸疾患及び乳兒の人工榮養に。牛酪乳の混合物なきものは小兒の輕症消化不良及び砂糖と穀粉を混じた牛酪乳に移行すべき時期に。普通の牛酪乳は母乳兒の副食及び榮養不良の小兒に、殊に下痢なきに體重の增加せぬときに。蛋白乳は凡ての下痢殊に酸性醱酵便のあるときに。ケルレル氏「マルツ」汁は小兒の脂肪石鹼便及び便祕のときに用ひます。
植物乳、卽ち巴旦杏及び「プラシル」乳は胃潰瘍、胃酸過多症、胃弛緩症、胃運動障碍、肥滿療法、殊に內臟下垂症、痛風、腎臟炎、心臟病に適當であります。

これで終りましたが、大分澤山病名があり、又普通日本の牛乳屋で製造販賣して居らぬ牛乳の種類もあり、獨逸專賣の製乳劑等もあつて、餘程お分かり惡い點があつたらうと思ひますが、これを通覽なされば兎に角、牛乳も醫療上にはその場合場合に依て、用ひて良いときもあり、惡いときもあり又その用法にもそれ〴〵理由があると云ふことだけは御會得が出來たことゝ存じます。



兒童衞生瑣談

ドクトル　山田彌發

共同生活と兒童

人間の共同生活が子供に及ぼす作用と云ふものは種種で例へば家庭、朋友、街上生活、其他種々の團體生活など種々あるが要する所敎育の社會的要素と見て差支あるまい。兒童の方から云へば是が社會的關係を學ぶ要素となるのである。
學校及び家庭の衞生的看護が兒童の發育及び作業能力に及ぼす所の影響はまことに著しいものである。
兩親の貧富と兒童の發育との關係

兒童の看護が能く行届けば其健康も保たれる。身體と精神との發育は互に密接の關係を持つて居るものであるから、若し身體の發育が惡るければ精神の發育も充分でない。それ故に兒童を充分發育せしむる爲に此兩方面から充分の保護をしなければならぬのである。

社會の文明生活が段々進歩して行く結果職業が激しくなつて其結果生活が困難になる。其爲に充分の保護を家庭で受けることの出來ぬ子供が增して來る。兒童の上から言へば是は大きな壓迫である。兒童の保護が充分でなければ其發育に及ぼす影響は餘程恐るべきもので、富たる家庭の兒童と貧しき家庭の兒童を檢査して見ると身體に現れた方面だけでも非常な差違を現はして居るのである。精神の方面から檢査しても同樣の關係を有つて居ると云ふことである。或學者が小學校の生徒に就いて身長を計つて見たが裕福の家庭の兒童は入學の時に貧民の子供よりも身長は高かつたと云ふことである。

以上の如く貧民の兒童が精神及身體共に裕福の家庭の兒童よりも劣つて居ると云ふことは事實である。身體と精神が斯の如く劣つて居る以上は其働が充分に出來ないことも當然である。社會生活が段々激しくなつて生存競爭が激烈になり、生活の困難が殖えて來る時に、一方に於て之を救濟する事業が行はれなければ貧民の兒童は益々哀れむべき狀態に陷らなければならぬ。是は國家の上から見ても大な問題である。此爲に何れの文明國に於ても貧民の兒童を保護する爲に政府も團體も種々の方法を講じて居るのである。

尙ほ注意すべきことは斯の如く身體及び精神の充分發育せざる兒童は大くなつて遂には又弱い兒童を生むと云ふことになるから社會上貧民の兒童を充分保護すると云ふことは重要の意義を有して居るものである。

睡眠及其作用

文明が進み生活難が激しくなつた結果幼弱なる兒童

を使役するものが益々殖えて來た。何れの國に於ても兒童を使役して居る數は益々增して來るやうである。殊に諸種の工場に出て働いて居る兒童の數は非常に多いので先進文明國では法律で兒童を保護する爲に色々の制定をした。例へば幾歳までの兒童は何時間以上働かせてはいけないとか、工場の中でも兒童を使ふことの出來ぬものを擧げて居る。卽ち大な發動機械を用ゐる工場、毒性色素を用ゐる工場、瓦斯工場、電氣工場等の如きものである。

兒童が斯の如き色々の勞働をする爲に睡眠の時間を妨られると云ふことは衞生上から見て非常に大な問題である。睡眠は一種の榮養である。卽ち睡眠に依つて疲勞を除き又物質交換を營むものであるから重要な意義を有するものである。然るに幼弱な兒童が其睡眠が充分出來ないと云ふことになれば榮養を殺れるのと同じことである。其爲に受くる所の障碍は普通想像するよりも大いのである。殊に又考へなければならないことは睡眠の場所及び其位置である。貧民の兒童は狹い所に多人數が睡らねばならぬ爲に衞生上良からぬのみならず風俗上にも色々の障碍を見るのである。

酒の濫用及其作用

酒精の害毒を兒童に說明して置くと云ふことは必要なことである。文明の國に在りては何所でも酒精を多量に用ゐて居るが間接と直接に受ける所の損害は甚しいものである。人一度歐洲に足を運べば各國民が種々の酒類を用ゐて居ることを見る。是は文明が持來たす所の惡い產物であらうが今日の如く社會生活が激しくなつて來た以上は此社會生活から酒精を除くと云ふことは非常に困難なことであらう。

酒精が社會及び人類を直接間接に害して居ることは實に激しいものである。例へば多數の災害、疾病、精神病、犯罪、異常兒童等を調べて見ると其中に酒の爲に起つて居るものがなか〱多くある。國家は是が爲に莫大な金を年々支出しなければならぬ。國家の負擔は何れの國に於ても莫大なものである。

それ故に兒童の頭に酒精を充分に浸込ませて置くと云ふことは非常に必要なことである。けれども是が理想的に行はれて居る所は殆どないと云つても宜い位である。獨逸は麥酒の故郷である。麥酒を飲む兒童は尠からずある。多くの學者は麥酒を飲む兒童と用ゐざる兒童とに就いて學校の成績の關係等を檢査した。其結果は何時でも酒を用ゐる子供の成績が用ゐざる兒童の成績よりも劣つて居るのである。

我が國に於ては幸に幼少の時分に酒を飲む兒童は餘りないやうであるが、酒の害に就いて知つて居る兒童は餘り多くないと思ふ。是等は矢張り小さな間に兒童の頭腦に充分印象させて置くやうにすることが必要である。

哺乳兒の鼻加答兒

稍々成長した小兒の鼻加答兒は成人の鼻加答兒と別に異つた所はありませんけれども、注意しなければならぬのは哺乳兒の鼻加答兒であります。

哺乳兒は何時も舌の尖を硬口蓋に密著つけて鼻だけで呼吸をして居るものであります。それに鼻腔內、殊に鼻と咽腔との通路が狹いものでありますから、鼻加答兒が起つて鼻や咽頭あたりの粘膜が腫れ、又分泌物が多くなりますと、容易に呼吸困難が起る、從つて哺乳が困難になり、睡眠を妨げられ、往々窒息しさうになることがあります。

哺乳兒の鼻加答兒は何うして起るか、卽ちその原因を尋ねますと、先づ母親、乳母、同胞、その他凡て鼻感冒に罹つて居る人から傳染致します。又麻疹、流行性感冒、實扶垤里、黴毒の如き傳染病の際に起りますが、單に塵埃の多い不潔な空氣の中に置いても起ります、寒い風にあてれば無論のことであります。又斯樣なことがなくとも結核、腺病、黴毒性の小兒、又淋巴腺體質など、云ふ體質の病氣から起る、或は起り易いものがあります。尙ほ吸入藥或は沃度

劑の如き内服藥の爲に鼻加答兒を起すこともあります。

黴毒とか實扶垤里などの爲に起る鼻加答兒は特異なもので、黴毒から來るものは、なか〳〵癒らない而して最初から餘り鼻液も出ず乾燥いて居りまして、他の鼻加答兒のやうに、氣管や結膜等の近所の粘膜を侵して行くことはありません。實扶垤里の爲に起つたものは殆ど一側だけで、熱が高く、腺腫脹が出來、鼻及び咽頭の方にも白い膜のやうなものが附著して居りますから、全體の樣姿で、醫師には直ちに分ります。

斯樣な特別のものは姑く措いて、普通の鼻加答兒は何んな風に經過するかと云ひますと、最初分泌物が增す、卽ち鼻汁が多くなる、それは初めの間は全く水のやうであるが、二三日過ると少し濃くなり、それから膿のやうに黃ばむで涸つて粘ばつて參ります。この鼻汁は多少刺戟しますから、少し長びきますと鼻の下が糜爛れます。それから小兒では鼻の加答兒が段々下の方へ蔓延して行つて、聲が枯れ、咳嗽が出て、熱が昇り、氣管枝加答兒或は氣管枝肺炎などになることがあり、又鼻から反對に上の方に昇つて眼の結膜炎を起し、眼瞼が腫れ、眼脂が出る、又耳が惡くなることもあります。而して耳や頸の邊の腫れることもあります。又鼻加答兒から口腔が荒れ、胃も惡くなり、往々下痢を起すと云ふ風に消化器を侵して行くこともある。乳兒は屢々窒息しかける實際これが爲に假死の狀態に陷ることさへもあるのであります。

こんな種々の事が起つて參りますから、鼻加答兒と云ふて馬鹿にはなりません、殊に哺乳兒では前に述べましたやうに、第一に乳を飮むことが妨げられますから、氣嫌が惡くなり、又一體に呼吸が困難になりますから、睡眠も安らかでない、少し甚しくなれば窒息すると云ふ狀態になりますから、是非手當をしてやらなければなりません、普通これだけでは危險と云ふほどの事もないのでありますが、兎に角

幼少の小兒ほど注意しなければなりません、特に月足らずの兒、前に他の病氣で衰弱してゐるやうな小兒は往々危險に迫ります。

全身の養生看護法に就ては、その時の狀況に依て醫師の診察を受けた上で相談もし療治も受けなければなりません、單に鼻加答兒の爲に小兒が鼻が出るとか鼻が詰るとか云ふときには、「オレーフ」油又は硼酸「ワゼリン」或は硼酸「ラノリン」等を小さな硝子棒或は羽毛につけて鼻の內に塗つてやります。又微溫の食鹽水で鼻の內を靜に拭ひてやり或は吸入器で硼酸水か食鹽水を鼻孔に吹込むのも宜しいのであります。尙ほ鼻の分泌物が乾いて固まると非常に呼吸を妨げますから、小兒の居る室內の空氣も乾燥せぬやうに、湯氣を立てゝ置くか或は濡れた巾を懸けて置くやうに致します。

鼻が詰つて餘り苦しがりますときには、「コカイン」とか「アドレナリン」とか云ふものを鼻の孔に滴し込むでやりますと通りが良くなりますけれども、何れも濫用すると危險のある藥でありますから、醫師の處方に依て醫師の言ふ通りに使用しなければなりません。

少年衞生訓（承前）

ワイグル述
莊司秋次郎譯

汝は每日身體の各部を洗はねばならぬ

（ア）顏面

朝起きた後で顏面を洗ふ。これは爽快に元氣よくするものであるが、晩にも一日の塵や汗を顏面から洗落さぬ中に寢てはならぬ。

（イ）足

足は朝から晩まで二重に包まれて居る、卽ち靴下と靴で包まれて居る。それで足は殆ど新鮮な空氣に觸れぬやうに閉込られて居る、その上、內で蒸され或は汗をかく。この爲に足の皮膚は弛緩み、空氣に對

して非常に過敏になる。

註。此點に於ては日本の兒童の足は全く自由に開放されて居るから、皮膚も健全である、又足の畸形になる氣遣もない。只拇趾と第二趾の間に鼻緒を挾むで歩く爲にその間が開く、これは日本人の足の特徴と目されて居る。この位の畸形は別に醜いこともなし何の障碍にもならぬ。只素足では怪我し易い、殊に「ペスト」が流行するとか破傷風が屢々起るやうな國では、小兒にも足袋だけは穿かせなければならぬ。

斯様な次第であるから、一週間に數回温湯或は微温湯で足浴することは、足の皮膚の爲に非常に良いことである。これには足を踝の上まで湯に入れて、不潔物をすつかり洗ひ落すのである。頗る心持の好いものである。僅かにこれだけの時間と勞力を用うれば快よく眠れるものである。若し好い季節に跣足で歩くときには、必ず毎晩足浴をしなければならぬ、決して不潔な足で寢に就てはならぬ。

註。日本の坐敷は決して土足で踏込むやうなことはなし、従て足も清潔にするから、兒童と雖、決して跣足で歩つて、そのまゝ室内に入るやうなことはない、況やそのまま牀に就く如きことはないが、然しその上にも尚ほ寢る前に足を湯で洗ふことは頗る望ましいことである。

足に汗の多いもの、所謂油足などと云ふ性質の人は毎日微温湯で足浴を行ふが宜い酸性の汗は皮膚を刺戟し、特に趾の間は往々皮膚が軟かになる。又汗足は傷を生じ易いものであるが、清潔にして置けばこれを免れる。毎日足浴を行へば、足の皮膚は清潔になり又強くなるものである。

(ウ)手

手は一日に一回或は二回だけでは不充分である。汝は洗ひもせぬ手で朝出て行つたり、穢ない手のままで晩に寢るやうなことのないのは固より分かつて居るが、然し食事の前には毎回、殊に石鹸をつけて手を洗ふやうにする。凡て食物を觸るゝ手は極めて清潔にしなければならぬ、縦令一片の乾いて居る麵麭を取るにも必ず清潔な手でなければならぬ。手の清潔と云ふことは口及び胃の爲にも大切なことであ

る。

汝は手について居る汚物の中には如何ものが含まれてゐるか知つて居るか。又穢ない手で麵麭或は果物或はその他の物を觸るゝときには、如何なるものを一緒に嚥込むか知つて居るか、凡そ清淨を貴び且つこれを實行するものは食物も亦唯清淨なものだけを食べなければならぬ。

尚食事の後或は遊戲の後に、汝の本や手帳を持つときにも毎常兩手を洗ふやうにする。學校道具が清潔になつて居るならば、どの位先生の苦勞を省くか知れない。脂の斑だの汚れた所などは、行儀の良い學校生徒の書物や手帳には無い筈である。若し汝が學校道具を何時でも清潔に保つやうに慣てゐるならば、將來成人になつても萬事につけて清潔を尙とぶやうになるに相違ない、これは汝自身の幸福である。

手のことを云ふに方つて、尙は一つ爪に就て話さなければならぬ。爪は特別に硬い皮膚の一部分であつて、多數の細かい神經の終末があるので非常に感覺の鋭い指の尖を保護してゐるものである。

それ故に決して爪の尖を齒で嚙切るやうなことをしてはならぬ。爪を嚙むのは實に醜い又害のある無作法な惡癖である。第一に爪を嚙めば指の格好を惡くし、指が軟かになつて、過敏になり且つ出血し易くなるものである。又指はその美しい自然の圓味を失なつて幅廣く醜くなる、これは爪が自然の支持をしなくなるからである。嚙切られた爪の周圍の皮膚は病氣に罹つて脆くなり。ささくれが出來る。斯樣になつた所には膿を造る黴菌が好んで著くものである。それで瘭疽と云ふやうな非常に疼痛の烈しい炎症、化膿が起る。それ故に爪を嚙む癖のあるものは往々潰瘍や血液中毒の爲に指を失ふことがある。爪を嚙むものゝ指は常に惡い臭がして、殊に手の不潔な場合には恰も腐つた肉のやうな厭ふべき臭氣のするものである。

（以下次號）

家庭衛生

面疔の療法

面疔と云ふのは顔面、殊に鼻の下あたりに出來る癤腫で非常に痛い、而して往々甚しく顔面が腫れ昔はこれが出來ると大抵死ぬやうに恐れられたものである、それは畢竟顔面には血管や淋巴管が多い爲に、その膿をもつてゐる處を妄りに壓したりすると、病原菌がそれを傳はつて腦に行き腦膜炎などを起して死ぬることがあるのである。

それで昔から面疔は決して指で壓してはならぬと云ひ、灸をすえたり、燒いたり致したものである。今日では普通早く切開してしまふ。

然しこれは無論醫師、特に外科醫のすべきことで、決して素人が針で突いたりすることは出來ない。然るに醫師の中でも面疔は切開しない方が良いと云ふ人がある。勿論醫師でなければ果して面疔か何かも診斷はつかないから、妄に面疔と獨斷をして好い加減なことをする譯には行かぬけれども、兎に角面疔である場合に、外科的に手術せずとも可い、或は切開しない方が良いと云へば、これは素人も聞いて置いて爲になることがあらうと思ふ。それで手療治を勸めるわけではないが、家庭衛生欄に紹介して置くことゝする。

面疔を切開せずに療治するのには先づ第一に牀に就て絶對的安靜を守ることが必要である、殊に談話をするやうな顔面の筋肉を動かすことを避ける、故に食物は凡て流動食に限り、急須或はスヒノミを用ひて靜に飲むやうにしなければならぬ。

それから下劑を用ひて通じをつけなければならぬ、これには瀉利鹽が一番宜しい、一日に十五瓦乃至二十瓦位づゝ多量の水に溶かして飲む、二回か三回位に分服して宜しい。

尚ほ前にも述た通り、決て壓したりしてはならぬ。而して如何な手當をするかと云ふに、只面疔の周圍にかけて注意して根氣よく濕布を貼てることである。その濕布を浸す藥液は種々あるが、これも特別なものは必要がない、寧ろなるべく刺戟の少ないものが宜しい、故に五十倍位の硼酸水が最も適當である。その濕しかたも水が滴れるやうでは可けない、却て害がある、と云ふて少しも水氣がないやうでは效がない、先づ顔を拭くときに手拭を絞る位の程度に絞つた五六枚の「ガーゼ」を一枚は癤腫の上に載せ、次の一枚は口唇と齒との間に挾み、一部は輕く齒の間に咬ませ、他の濕布は厚く重ねてその上に載せ、顔全體を被ふやうにし、場合に依ては耳の後から頸部までも濕布で被ふやうにするのである。

斯樣にして何時も濕布が體溫と同一になつてゐるやうに、又同一の濕氣を保つてゐるやうにするのである。そうすれば疔の出初めのものは勿論、稍や進んだものでも大抵大事に至らずして癒るものである。

抄錄

病女の看護實驗

岡野知十述（料理研究）

岡野知十氏及び、同夫人の主催に係る家庭割烹會の機關雜誌「料理研究」に左の記事あり。

九歲の少女、急に發熱、嘔吐ありて七日間も食餌を攝らざりしが故に、「アイスクリーム」を進めし處、「イチゴ」の「アイスクリーム」を望めり。

依りて

牛乳一合　玉子二個　砂糖　茶匙四杯

を煮立て濾して、之に「イチゴ」の「ジヤミ」を裏漉にかけて加へ、「アイスクリーム」を作りしが、病兒は喜びて之を攝取せり、翌日は更に鷄の羹汁一合を加へたり、それより主治醫の注意によりて、玉子を除き、牛乳、なも湯、「ジヤミ」、砂糖にて「アイスクリーム」を作りて試みしが、これ亦快く飲用せり。

次には玄米のおも湯卽ち

玄米　二五・〇　水五〇〇・〇を
おも湯、一合に作り之に
牛乳一合　砂糖　茶匙四杯　「ジヤミ」　茶匙四杯

の割合にて製造試食せしが、玄米の甘味もありて風味よく、是れ亦病兒の好むところとなり、かくして十日目位に始めておも湯をその儘にて攝取するに至れり、然るに衰弱も尠く、快復期も頁好なりしといふ。

病人が、牛乳や玉子やおも湯等を攝らぬ場合には、醫家は常に困難を覺ふる處であるが、之を「アイスクリーム」にして與へ得ることは非常に便利である、殊に近頃自働「アイスクリーム」器とて、從來の器械のやうに運轉することを要せざる非常に簡便なる器械が出來た、それは東京京橋區南佐柄木町寶洋行にて販賣せるが、使用時に氷の中に食鹽を混入するのみにて放置すれば、自然に「アイスクリーム」となるなり。

昨今は蟲干の好季節

中根富久子述（萬朝報）

昨今は蟲干の好季節であります、蟲干は土用が過ぎて秋風が涼しく吹き出してからがよいといふのは第一、空氣が乾燥してゐます、また取扱ひにも暑中より遙かに樂です、夏の汗ばんだ濕氣の多い手で觸ると、衣類でも漆器でも汚れが附いて痕の殘る恐れがあります夫に夏分は害蟲の數が多く、蛾の種類に依ては畳てある衣類の表に卵を夥しく生みつけるのがあります、夫を知らずに其儘疊んで藏つて置くと、後になつて取出した時穴が明いてゐるといふやうな事があります、だから、蟲干をした後の藏ひ方に注意を拂はないと、折角風を入れた效力を無くすることさへあります、それで蠹魚なぞが附いてゐないかと氣を付け、容れ物も十分に日光に曝して、藏ふべきであります、また蟲干の後ではよく樟腦を入れますが、樟腦は金屬製のもの（例へば金絲銀絲を織り込んだ織物や、大禮服の金モールなど）を變色させることがあります、樟腦の代用にする藥品の中では固形「フオルマリン」が一等よいと思ひます、品物を毀損する恐れもなく、「ナフタリン」のやうな惡臭も發せず、防腐殺菌の力が非常に強いのが特色であります。



雜報

○派遣救護班の榮譽

英、佛及び露國に派遣されたる我が日本赤十字社救護班は孰れも熱心に勤務し好成績を擧げつゝあるこ

とは屢々報道したる如く、嚢には露國派遣の赤十字病院には露國皇太后陛下の御親臨あり、去月二十三日には英國皇太后アレクサンドラ陛下にも亦我が在英救護班に臨啓の上、班員の勤務に對して慰勞の令旨を賜はりたる由なるが、佛國派遣の同社救護班も亦その成績の顯著なるが爲に、特に顯貴の地位に在る負傷者收容の希望多しと。

○東京府産婆試驗

本年第二回の東京府産婆試驗は十月九日より施行せらるべく、その出願者は左の個條を心得べし。

一、願書は明治四十五年二月二十四日本府告示第四十七號に據り來る九月中當廳へ差出すべし

一、受驗者は受驗番號票及び受驗者心得書を試驗前日迄に受取るべし

但し實地試驗のみの出願者には受驗日割及び番號票を交付すべきに付き十月七日當廳へ出頭受取るべし

○産婆生徒募集

麴町半藏門外の私立日本産婆看護婦學校にては新學期を開始するにつき産婆生徒を募集中なり、入學者の程度は高等小學校卒業の程度、出願期限は本月末日までなり。又、濱田産婆學校にては來る二十五日迄に六十名を募集し、神田表猿樂町なる水原産婆學校にても生徒募集中なり、申込期限は本月末日迄なり。

○小學教員の疾病休退職

文部省の調査に據れば、大正三年度に於て疾病の爲に休職又は退職となりたる全國小學校教員の總數は五千三百八十一人にして、その內肺結核の爲に休職となれるもの六十二人、同じく肺結核にて退職となれるもの百七十六人、合計二百三十八人、その他の疾病にて休職となれるもの千三百七十八人、退職となれるもの三千七百六十五人、合計五千百四十三人なり。

○殺鼠劑の配布

東京市にては「ペスト」豫防法の一つとして全市及び

近接町村に殺鼠劑を配布することゝなり。去月十九日までに第一回の配布を了へ、翌二十日よりは更に第二回の配布をなせるが、第一回には市内三十二萬九百六十七戸に、殺鼠劑三百二十三萬七千六百五十五個を配布したる由にて、その結果急に斃鼠多くなれりと云ふ。

○東京市民の飲む氷と乳

東京で一年に氷水屋の賣る氷の額は一億二千五百二十四萬杯である由で一杯二錢としても二百五十萬圓だといふ東京の人間が氷水にこの莫大な金を費やすとは驚かざるを得ない。然るに牛乳は何の位飲むかと云ふに東京市民が一年間に飲む牛乳の總高は四萬六千石で一日一家に割當てると一勺にしか當らない。歐米では、最も少なく見つもつて一日一家四五合の割である。

○兒童の喫煙

和蘭國のヘールレン市長は小學兒童の喫煙に關し、小學校長及び高等小學校長に對し左の如き書面を送りて警告したりと告ふ

此地方に於ても小學校生徒の喫煙者の增加は非常にして驚くべきことに候小生自身も今日十歲乃至十二歲の幼童が街路上に於て此喫煙の罪過を犯しつゝあることを目擊いたし居る者に候、喫煙殊に紙捲煙草の喫煙より生ずる所の害毒が青年によりて精神上肉體上頗る大なる事は貴下も小生と同じく知悉せらるゝ所なるが故に若し貴下が御自身にても又は御配下の教員によるも貴校の生徒に喫煙の惡事なることを極力說明せられなば小生の欣喜之に過ぐる者無之候。尤も小生自身に於ては青年喫煙の禁止のためには嚴重なる規則を勵行いたし居り候次第につき他にこの弊害を最小ならしむる適當の方法も有之候はゞ甚だ恐縮ながら御意見御洩らし願度候。又此教員の企圖をして效果あらしむるために父兄の協力せらるゝ事は希望の至に堪へず候。

廣告

●麹町區ヨリ府下中澁谷四二四へ　本田貞子
●麻布區ヨリ府下大崎中北四四四へ　澁谷保子
●芝區ヨリ牛込區仲十二へ　久保田不二子
●芝區內三田四國町二四へ　酒井くに子
●芝區內功運町一へ　白石きん子
●沖繩ヨリ本郷區追分町三十へ　中川靜子

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁　東伏見宮妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

幹事　鳩山春子
同　岡田德子
同　山本多穗子
同　松平芳子
評議員　石川貞子
同　濱田捨子
同　仁禮壽賀子
同　土肥多越子
同　岡山とし子
同　男爵夫人　加藤鈴子
同　丹波貞子
同　田村きよ子
同　男爵夫人　南部殷子
同　山口貞子
同　古市幸子
同　伯爵夫人　阿部篤子
同　岸澄子
同　三宅藤子
同　宮下咲子

同　長谷川仲子
同　高木鐐子
同　三浦敎子
同　羽田三緒子
同　服部繁子
同　西舛子
同　緒方悅子
同　小川孝子
同　片山龜子
同　高橋孝子
同　鵜原誠子
同　中濱芳子
同　子爵夫人　松井正子
同　小松いさ子
同　天野多喜子
同　菊池米子
同　宮本樂子
同　守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價	廣告料	規定
一冊　定價金貳拾錢　郵稅壹錢 三冊（三ヶ月分）前金郵稅共　金四拾五錢 十二冊（一ヶ年分）前金郵稅共　金壹圓八拾錢	一頁　六十二行　一行二十三字 壹頁　金五圓　半頁　金貳圓五拾錢 ○特別廣告　壹頁金拾圓　半頁金五圓 ○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢	○本誌講讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ講讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正四年九月二十二日印刷
大正四年九月二十五日發行

編輯者兼發行者　東京市本郷區根津西須町九番地　莊司秋次郎
印刷者　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　田中捨藏
印刷所　東京市本郷區駒込林町百七十二番地　杏林舍

發行所　東京市麴町區富士見町二丁目三十二番地　私立大日本婦人衛生會事務所

賣捌所
東京市本郷區龍岡町　吐鳳堂
同市銀座四丁目　東海堂
同市京橋區鎗屋町　良明堂
同市本郷區本富士町　明文館
同市同區春木町　南江堂支店
京都市寺町二條南入町　若林茂一郎
東京市日本橋區呉服町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本郷區本富士町　盛春堂
名古屋市榮町六丁目　丸善書店

神經衰弱 特効新薬

燐の神經を健全にし營養を増進するは醫學上確定の事實なるが如何にして吸收性同化性の燐を經濟的に作るべきやは一大難問なりき

農學博士鈴木梅太郎先生は其深遠なる生物化學的知識を傾注して研究の結果國産の原料を用ひて之を製出する方法を發見され**ユーキリン**と命名さる。

ユーキリン

ユーキリンは有機性燐化合物フ井トリン酸の石灰鹽なるを以て重要なる**燐療法**と共に有効なる**石灰療法**を併用するを得るが故に治療上の効果殊に著しく、能く一般の營養を増進し、骨の發育を助け、赤血球の増加を促し、胃消化を催進す、故に本劑は**神經衰弱、陰萎**及其他の**神經系疾患**に對し卓効を奏するのみならず、佝僂病、腺病、發育不全、重病恢復期、發育緩慢の小兒、結核性疾患、姙婦、授乳婦等に用ふれば營養を増進し體力を强健にす

詳細なる報文あり御申越次第贈呈す

定價

廿五瓦入	金七拾五錢
五十瓦入	金壹圓參拾五錢
百瓦入	金貳圓四拾錢
半磅入	金四圓八拾錢
錠劑百錠入	金八拾錢
膠囊百個入	金九拾五錢

東京室町

三共株式會社

婦人衛生雜誌第三百十號（大正四年九月廿五日發行）明治四十三年十二月一日第三種郵便物認可（毎月一回廿五日發行）